

2014年3月期 第2四半期 決算・経営説明会

2013/11/22

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

■ 本日のポイント	2
■ 2014年3月期第2四半期決算の概要	3
■ ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)	7
■ 2013－15年度中期経営計画「ActionD」の進捗報告	12
■ 参考データ	30

- 医療・貯蓄・海外など成長分野の保険販売の好調が続き、第一生命単体の資産運用収支が改善したことで、2014年3月期第2四半期決算は大幅増収・増益を達成。連結通期業績予想を上方修正。
- 2013年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは前期末比約4,300億円増の約3兆7,700億円。新契約の獲得や金融環境の改善を背景に保有契約価値が増加。グループ新契約価値は前年同期比31.4%増、新契約マージンは同約0.4ポイント改善。
- 中期経営計画は順調に伸展。経済価値ベースの収益を会計利益として実現すべく、財務的課題の解決を進め、中期目標である修正純利益1,000億円達成の確度が高まる。

2014年3月期第2四半期決算の概要

一生涯のパートナー

第一生命

- 連結経常収益・連結純利益ともに大幅増加を達成
- 好調な銀行窓販と、資産運用収支の改善が業績を牽引

(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計 (a)	前期比	
			増減額	増減率
連結経常収益	23,377	29,752	+6,374	+27%
第一生命単体	20,373	22,082	+1,709	+8%
連結経常利益	888	1,560	+672	+76%
第一生命単体	886	1,718	+831	+94%
連結純利益	280	479	+198	+71%
第一生命単体	300	640	+339	+113%

<参考>

	2013/5/15 発表予想	2013/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
	連結経常収益	46,630	55,890
第一生命単体	38,540	41,970	53%
連結経常利益	1,760	2,490	63%
第一生命単体	1,750	2,600	66%
連結純利益	370	570	84%
第一生命単体	400	700	91%

グループ各社の業績

一生涯のパートナー

第一生命

	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【豪TAL】 ⁽¹⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万豪ドル)			(億円)		
	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	前年 同期比	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	前年 同期比	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	前年 同期比	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	20,373	22,082	+8%	2,198	6,578	+199%	1,195	1,372	+15%	23,377	29,752	+27%
保険料等収入	14,299	14,274	△0%	2,037	5,957	+192%	962	1,102	+15%	17,077	21,188	+24%
資産運用収益	4,850	6,150	+27%	159	621	+289%	105	158	+50%	5,042	6,826	+35%
経常費用	19,486	20,364	+5%	2,278	6,759	+197%	1,098	1,323	+20%	22,488	28,191	+25%
保険金等支払金	11,710	11,821	+1%	563	1,731	+208%	639	748	+17%	12,737	14,163	+11%
責任準備金等繰入額	1,960	3,252	+66%	1,405	4,454	+217%	157	251	+59%	3,395	7,876	+132%
資産運用費用	1,882	1,058	△44%	218	330	+51%	17	16	△5%	2,056	1,345	△35%
事業費	1,987	2,065	+4%	85	221	+160%	241	264	+9%	2,283	2,551	+12%
経常利益(△は損失)	886	1,718	+94%	△ 79	△ 181	--	97	49	△49%	888	1,560	+76%
特別利益	45	17	△61%	--	--	--	--	--	--	45	17	△61%
特別損失	205	269	+31%	1	2	+60%	--	--	--	207	272	+31%
少数株主損失(△)	--	--	--	--	--	--	--	--	--	△ 6	△ 18	--
純利益(△は損失)	300	640	+113%	△ 81	△ 183	--	68	29	△57%	280	479	+71%

(1) 豪TALの数値は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

2014年3月期業績予想

- 当第2四半期は期初予想に対して営業業績・運用収支が良好に推移
- 今後の事業環境については不透明な部分もあり、運用環境等を保守的な前提で見積もり修正

	(億円)			(参考)
	13/3期	14/3期(予) ※2013/11/14 発表予想	増減	14/3期(予) ※2013/5/15 発表予想
経常収益	52,839	55,890	3,050	46,630
第一生命単体	43,159	41,970	△ 1,189	38,540
第一フロンティア	7,817	11,840	+ 4,022	5,950
TAL (百万豪ドル)	2,386	2,650	+ 263	2,520
経常利益	1,572	2,490	+ 917	1,760
第一生命単体	1,738	2,600	+ 861	1,750
第一フロンティア	△ 286	△ 200	+ 86	△ 110
TAL (百万豪ドル)	131	110	△ 21	130
当期純利益	324	570	+ 245	370
第一生命単体	514	700	+ 185	400
第一フロンティア ⁽¹⁾	△ 265	△ 189	+ 76	△ 99
TAL (百万豪ドル)	91	70	△ 21	90
1株当たり配当金⁽²⁾	16円	20円	+4円	20円
(参考:基礎利益)				
第一生命・第一フロンティア合算	3,476	3,400程度	△ 76	---
第一生命単体	3,145	3,300程度	+ 154	2,800程度

(1) 持分考慮後

(2) 1株当たり配当金(2014年3月期は予想)は2013年10月1日実施の株式分割(普通株式1株を100株に分割)を考慮した額を記載しております。

EEV

一生涯のパートナー

第一生命

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (1)

- 新契約獲得と金利上昇により保有契約価値が増加、新契約価値は料率改定効果等により大幅増

第一生命グループのEEV

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
EEV	33,419	37,769	+4,349
修正純資産	31,288	30,665	△622
保有契約価値	2,131	7,103	+4,972

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期
新契約価値	798	1,049	+251	2,112

第一生命(単体)

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
EEV	33,529	37,868	+4,338
修正純資産	32,230	31,736	△494
保有契約価値	1,298	6,131	+4,833

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期
新契約価値	699	896	+197	1,911

第一フロンティア生命

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
EEV	1,293	1,340	+47
修正純資産	1,316	1,203	△113
保有契約価値	△23	136	+160

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期
新契約価値	1	82	+80	19

EEV -ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (2)

TAL (億円)

	13/3末	13/9末	増減
EEV	1,726	1,721	△4
修正純資産	871	872	+1
保有契約価値	854	849	△5

<参考> TAL (豪ドルベース) (百万豪ドル)

	13/3末	13/9末	増減
EEV	1,762	1,894	+132
修正純資産	889	960	+70
保有契約価値	872	934	+61

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期
新契約価値	97	78	△19	183

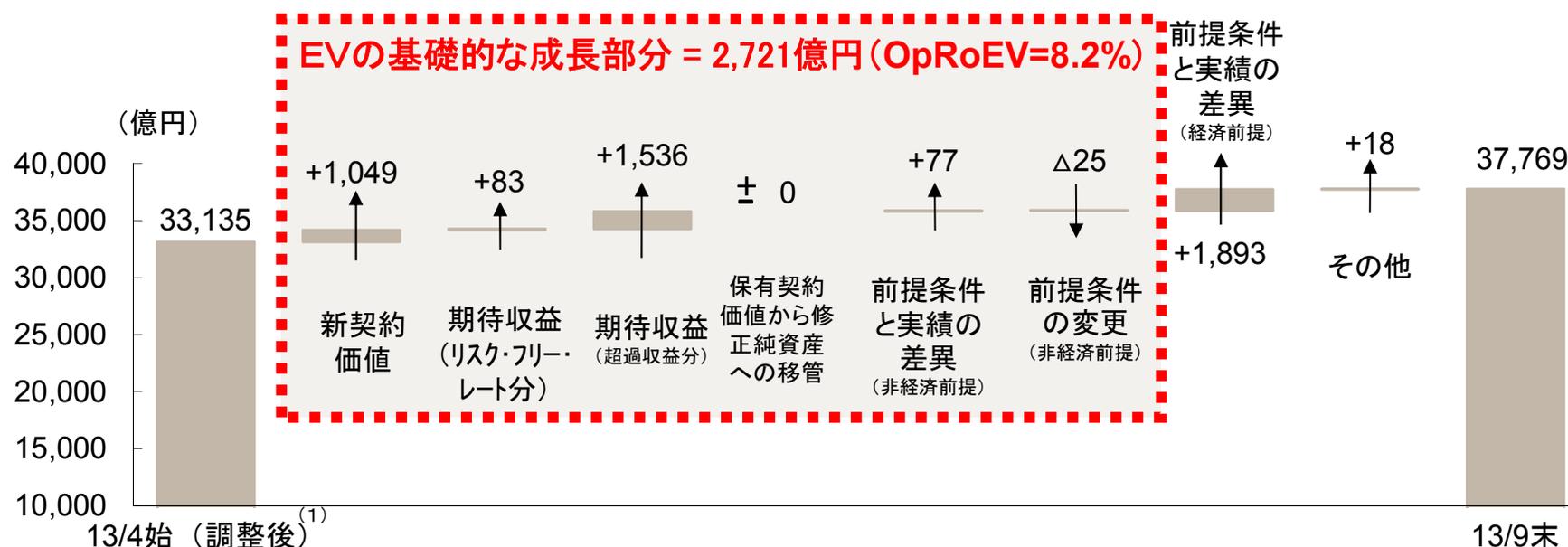
	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期
新契約価値	120	86	△33	187

13/3期2Q累計の新契約価値:
12/9末の為替レート(1豪ドル=81.12円)を使用

13/3末EEV・13/3期の新契約価値:
13/3末の為替レート(1豪ドル=97.93円)を使用

13/9末EEV・14/3期2Q累計の新契約価値:
13/9末の為替レート(1豪ドル=90.87円)を使用

グループEEV変動要因分析



<参考①> 修正純資産・保有契約価値別の内訳(項目は上グラフに対応)

(億円)

修正純資産	31,065	±0	△81	+169	△226	+48	△3	△304	△2	30,665
保有契約価値	2,070	+1,049	+164	+1,367	+226	+28	△22	+2,198	+20	7,103
合計	33,135	+1,049	+83	+1,536	±0	+77	△25	+1,893	+18	37,769

<参考②> 各社別の変動要因(項目は上グラフに対応)

(億円)

第一生命	33,369	+896	+76	+1,472	±0	+33	+0	+2,019	±0	37,868
フロンティア	1,293	+82	△18	+71	±0	+21	+9	△119	±0	1,340
TAL	1,624	+78	+23	±0	±0	+24	△33	△12	+18	1,721
グループ	33,135	+1,049	+83	+1,536	±0	+77	△25	+1,893	+18	37,769

(1) EEVの変動要因分析について詳しくは2013年11月19日公表「2013年9月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」を参照してください。

新契約価値

【第一生命グループ】

(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	798	1,049	+251
収入保険料現価 (B)	15,238	18,650	+3,411
新契約マージン (A/B)	5.24%	5.63%	+0.39ポイント

内訳

【第一生命】

【第一フロンティア】

TAL

(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	699	896	+197	1	82	+80	97	78	△19
収入保険料現価 (B)	12,620	12,551	△68	1,810	5,375	+3,564	987	1,260	+272
新契約マージン (A/B)	5.54%	7.14%	+1.60 ポイント	0.11%	1.54%	+1.43 ポイント	9.88%	6.24%	△3.64 ポイント

主な要因

- + 料率改定の影響
- + 解約失効率の改善

主な要因

- + 販売量の増加
- + 海外金利上昇

主な要因

- ▲ 非経済前提の変更
- ▲ 金利上昇
(将来利益現価の減少)

2013－15年度中期経営計画 「ActionD」の進捗報告

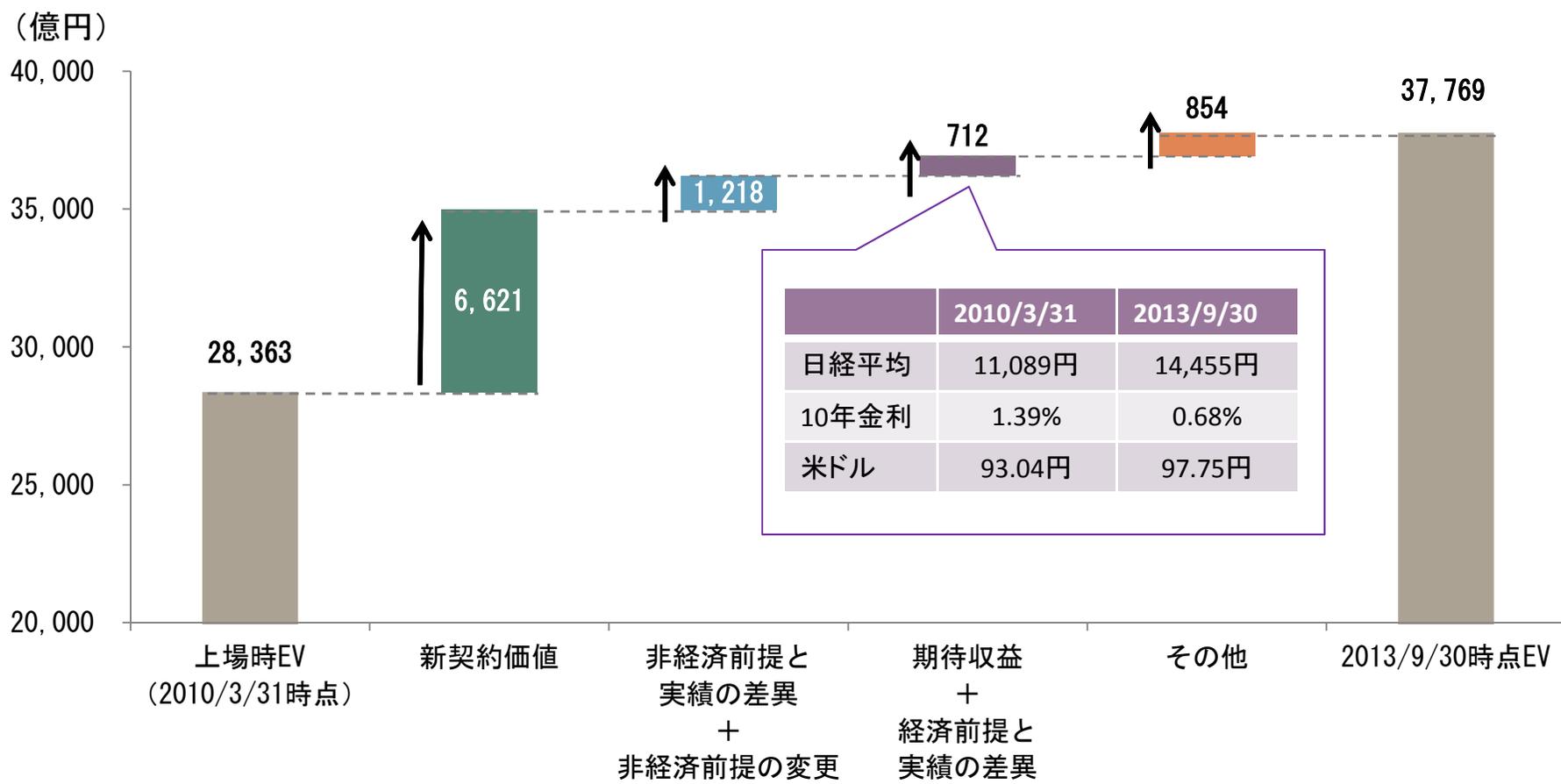
一生涯のパートナー

第一生命

(余白)

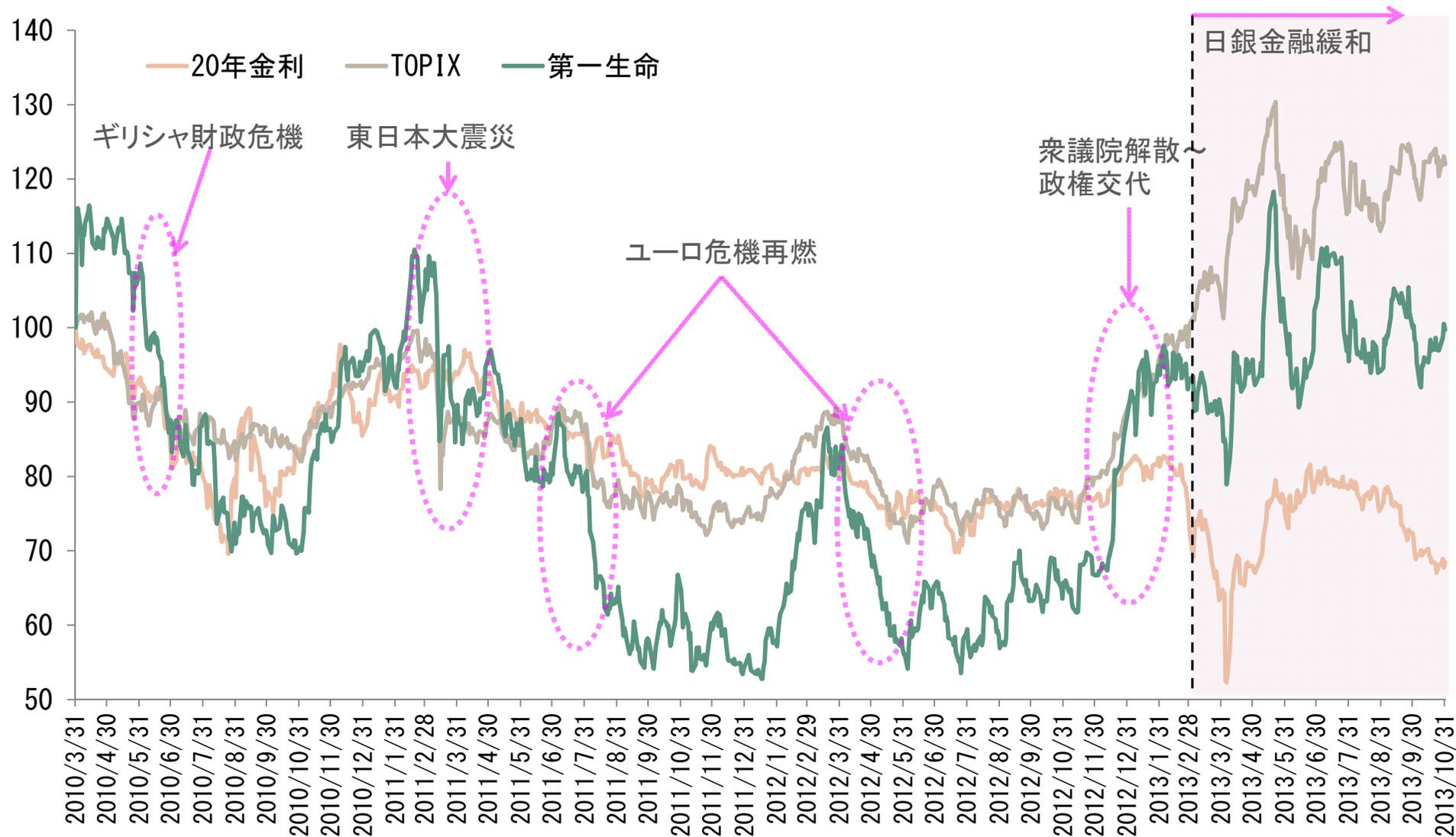
EEVの成長を牽引する新契約価値の伸展

上場来のグループEEV変動要因分析(2010/3/31~2013/9/30)



数値は過去3年度および今年度上半期における変動要因の単純合計値

第一生命の株価・TOPIX・20年金利の推移



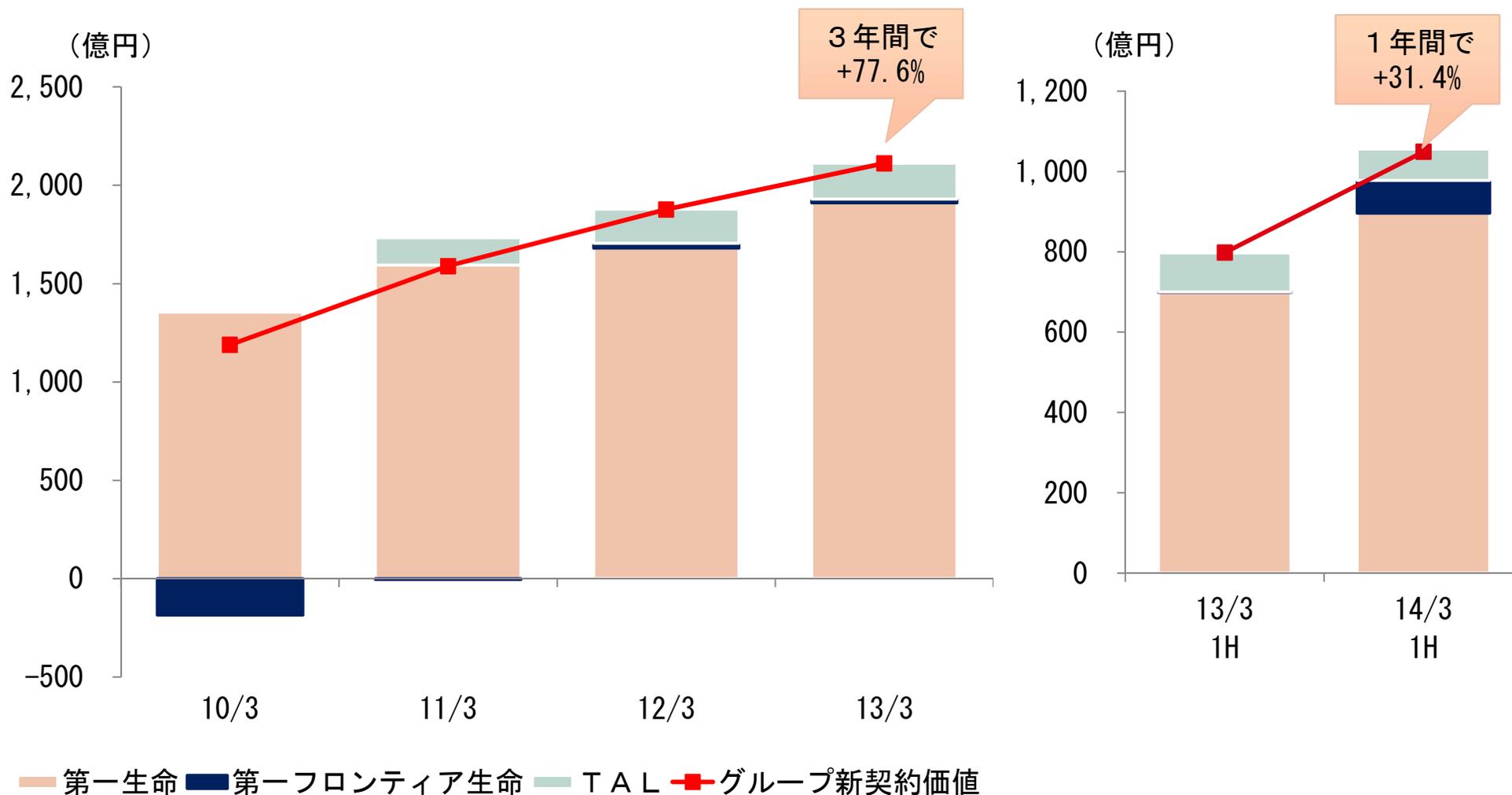
TOPIXは10年3月31日を100として指数化。当社株価は売出価格140,000円を基準に指数化。

グループ各社の貢献で高い伸びを示す新契約価値

一生のパートナー

第一生命

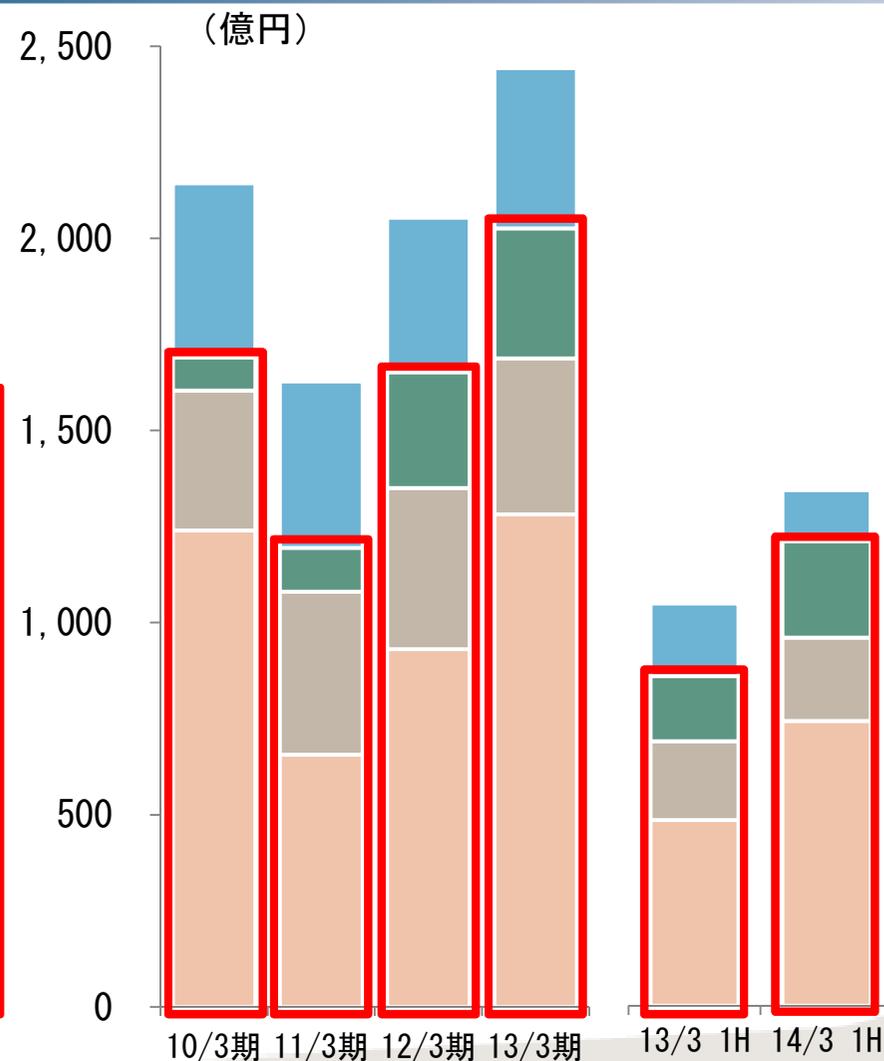
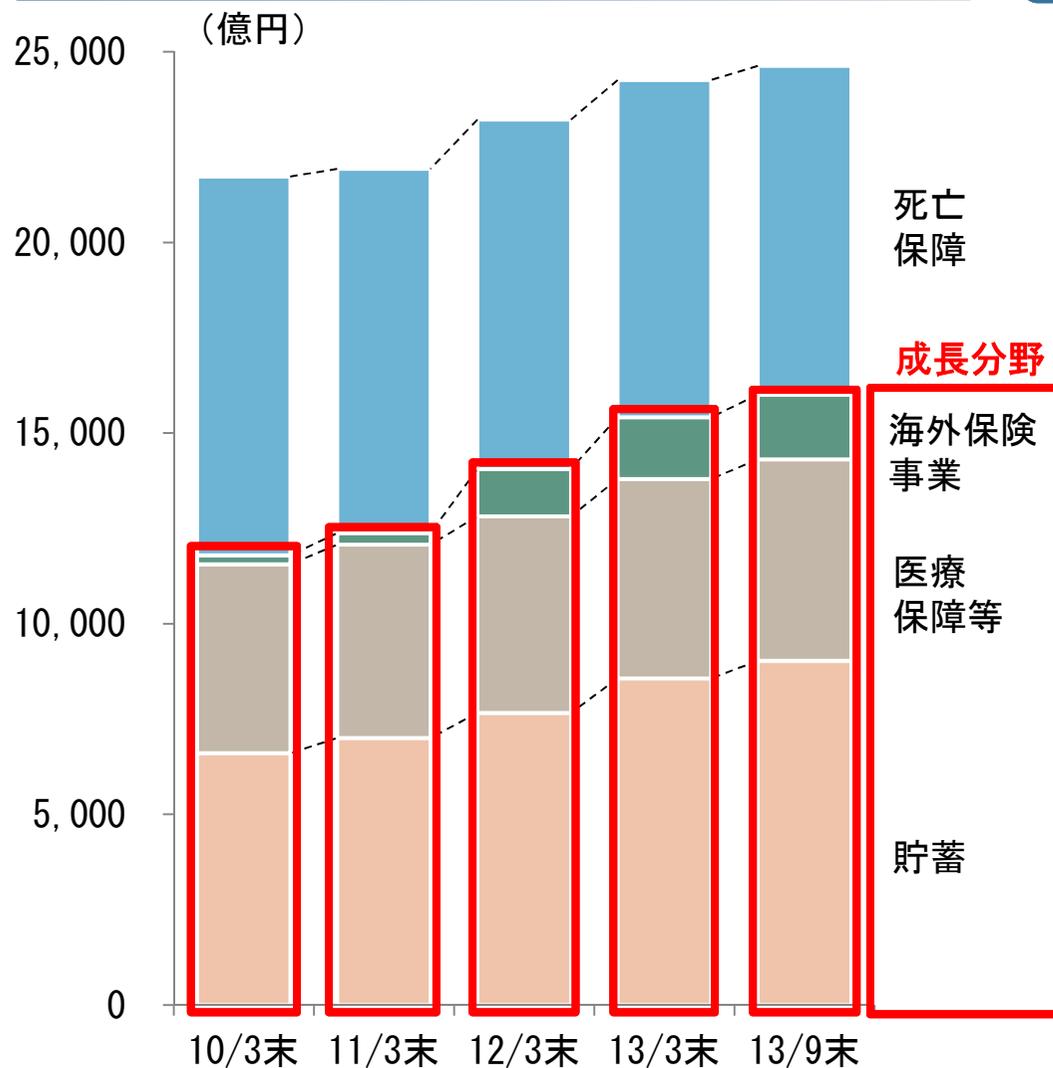
第一生命グループの新契約価値



第一生命グループ年換算保険料⁽¹⁾

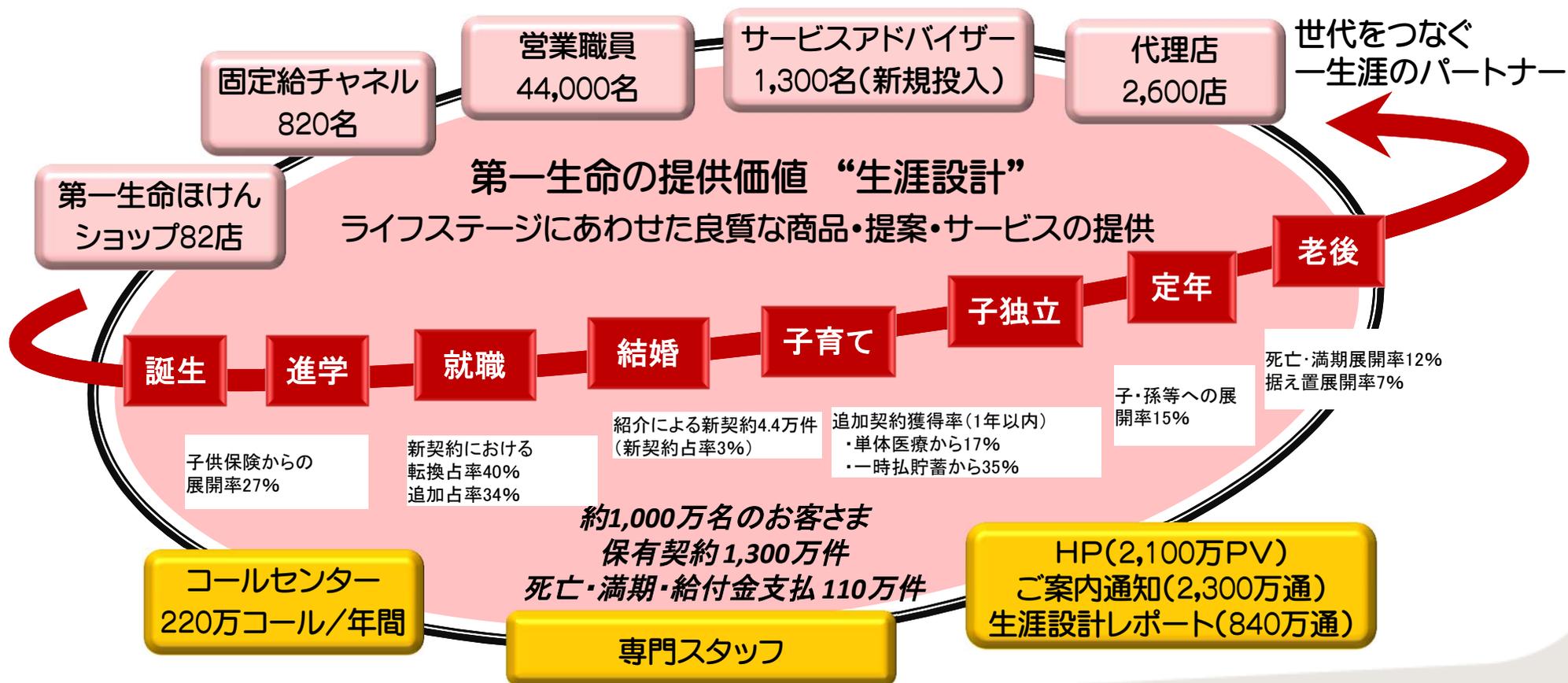
第一生命グループ保有契約年換算保険料の推移

第一生命グループ新契約年換算保険料の推移

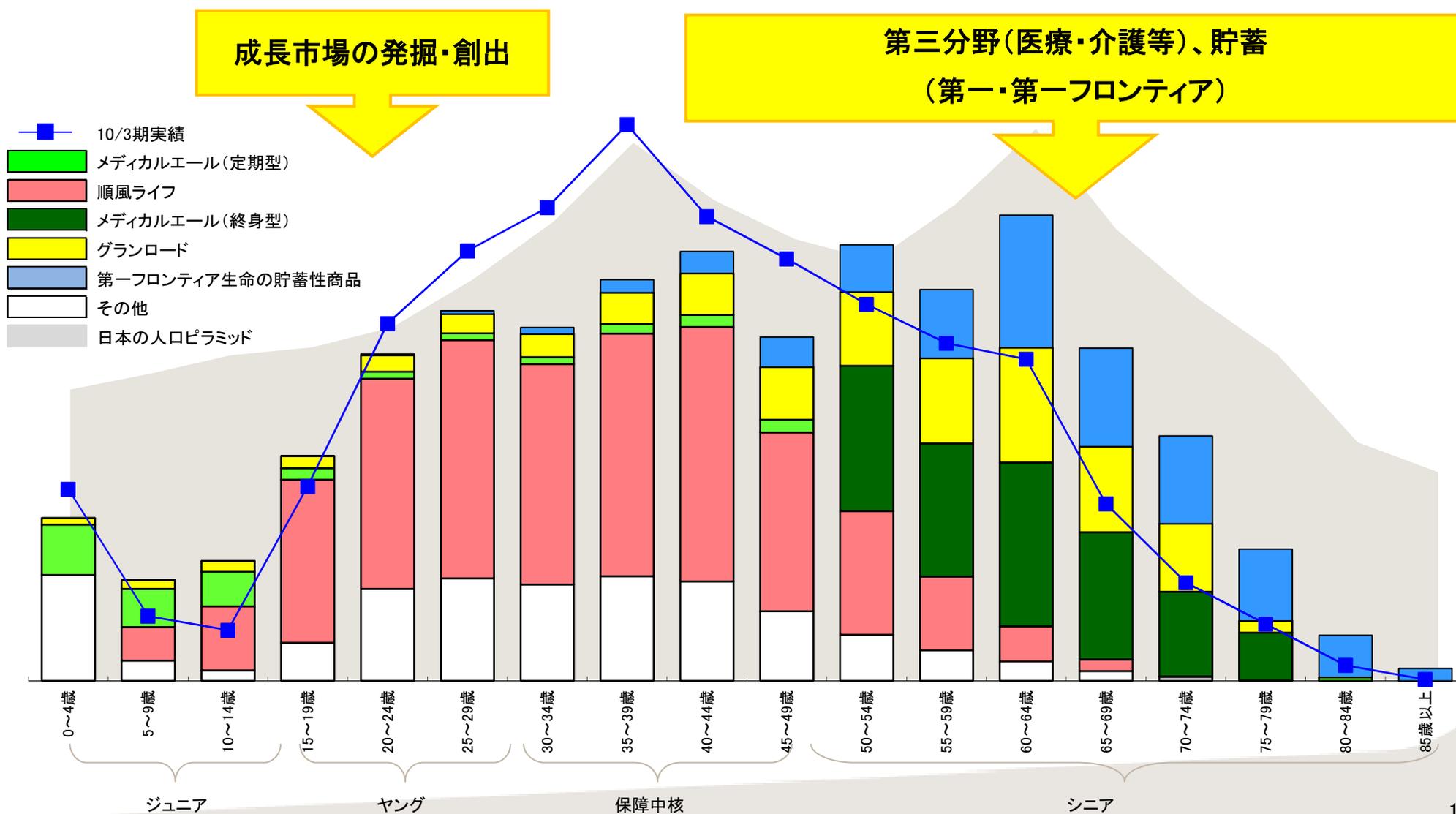


顧客生涯価値の最大化と、既契約基盤を起点とした新たなマーケットの創出

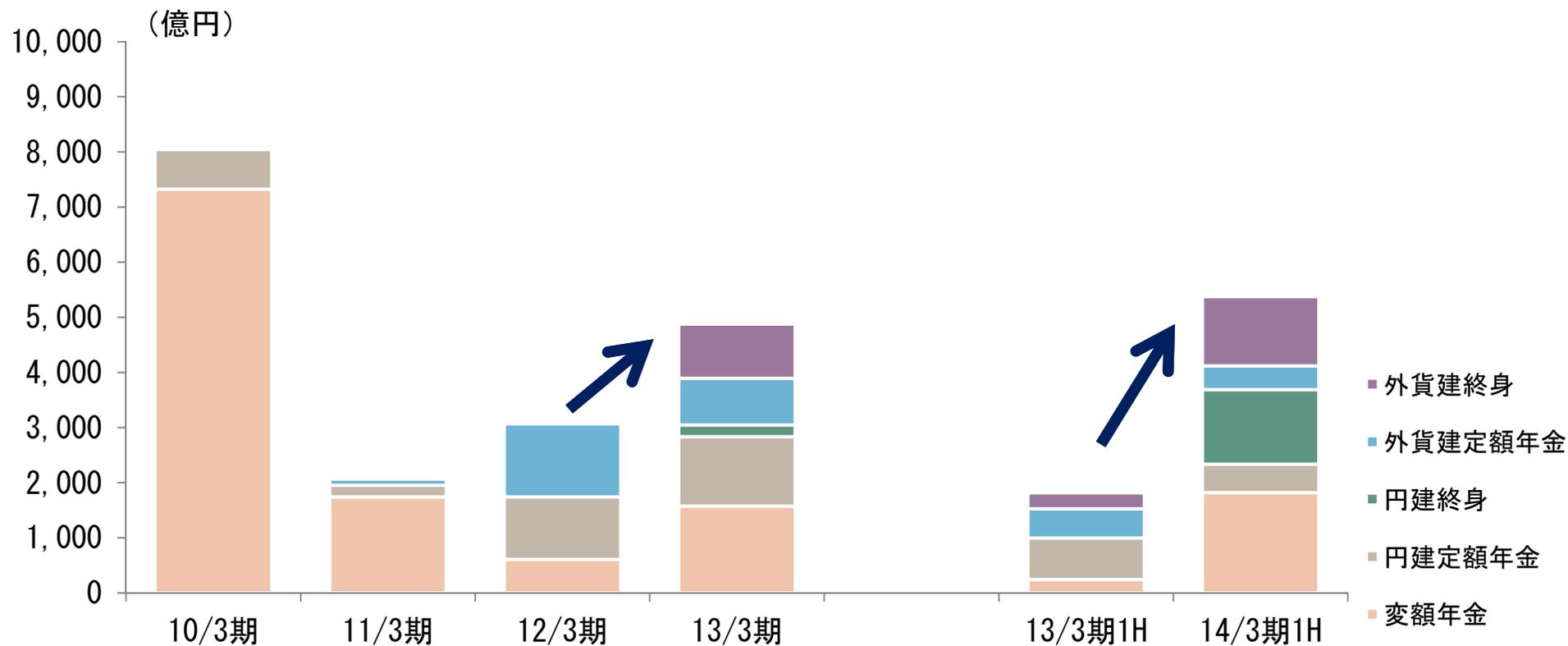
- 潤沢な保有顧客に、様々なチャンネルでアクセスし、新契約への展開をはかり、顧客生涯価値を最大化
- 一生涯のパートナーとして、子・孫の世代への展開、紹介による新規顧客への展開により、新規マーケットを創出



新契約件数の被保険者年齢別分布(14年3月期第2四半期)



第一フロンティア生命： 新契約の商品種別内訳⁽¹⁾



※10/08 プレミアカレンシー・シリーズ (外貨建定期年金/MVA有) 販売開始

※12/05 プレミアレシーブ (外貨建終身/MVA有) 販売開始

※12/08 プレミアタッチ (変額年金/ターゲット型) 販売開始

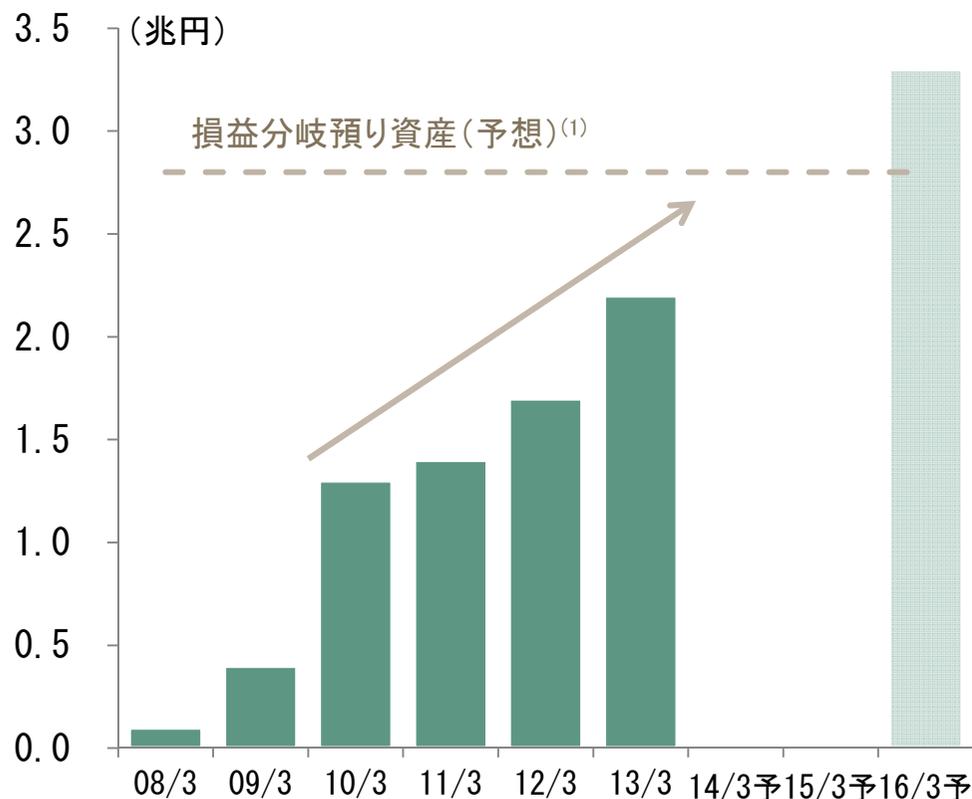
※13/09 プレミアタッチ2

※13/02 プレミアレシーブ (円建終身/MVA有) 販売開始

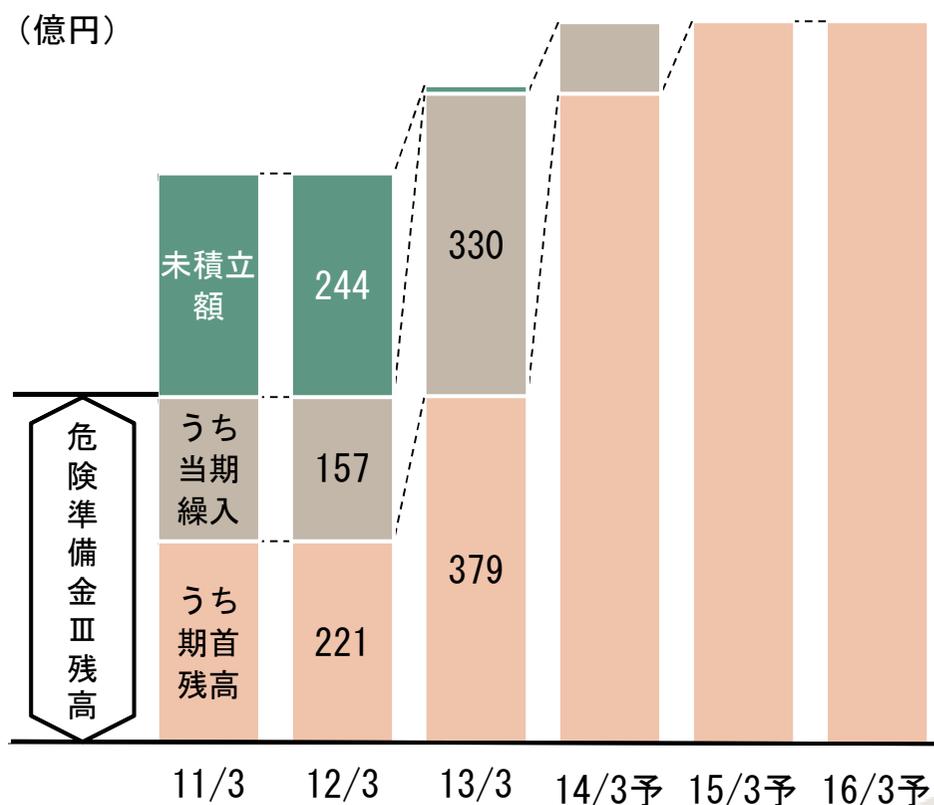
(1) 保険料ベース

- 商品ラインナップの多様化により売れ筋商品の変化に機動的に対応⇒預り資産残高は着実に増加
- 利益圧迫要因である危険準備金Ⅲは積立限度額にほぼ到達⇒以降会計利益は大きく改善

第一フロンティア生命：預り資産残高推移



危険準備金Ⅲ繰入額の見通し



(1) 契約維持費収入が、固定費と同額となる預り資産の水準。

成長を支える財務戦略／海外展開の現状

一生涯のパートナー

第一生命

社名	従業員数 ⁽¹⁾ (13/3末)	主力販売チャネル	主力商品	14/3期 上半期 保険料収入実績 ⁽²⁾⁽³⁾		市場シェア ⁽⁴⁾
					前年同期比	
第一生命ベトナム (100%子会社、07年1月買収)	555名	個人募集代理人	ユニバーサル保険、 養老保険	7,436億ドン (34億円)	+22.9%	7.5%
TAL(オーストラリア) (08年29.7%出資 ⇒11年5月100%子会社化)	1,339名	独立アドバイザー(リテール) ホールセール(団保) コールセンター(ダイレクト)	保障性商品 (死亡・所得保障・高度 障害等)	1,102百万豪ドル (1,002億円)	+14.6%	14.3%
スター・ユニオン・第一ライフ (インド) (出資比率26%、 09年2月営業開始)	1,891名	銀行窓販	ユニットリンク保険、 養老保険	3,416百万ルピー (56億円)	+0.03%	⁽⁵⁾ 0.8%
オーシャンライフ(タイ) (出資比率24%、08年7月出資)	1,961名	個人募集代理人	養老保険	6,879百万バーツ (217億円)	-7.4%	3.2%

(1) 販売チャネルの人員は含まない。ただし、TAL社のダイレクト販売に関わる人員は、従業員数に含む。

(2) 対応する期間は、第一生命ベトナム社、スター・ユニオン・第一ライフ社、オーシャン社は1～6月。TAL社は4～9月。

保険料実績は、第一生命ベトナム社、TAL社、オーシャン社は保険料等収入。スター・ユニオン・第一ライフ社は換算収入保険料。

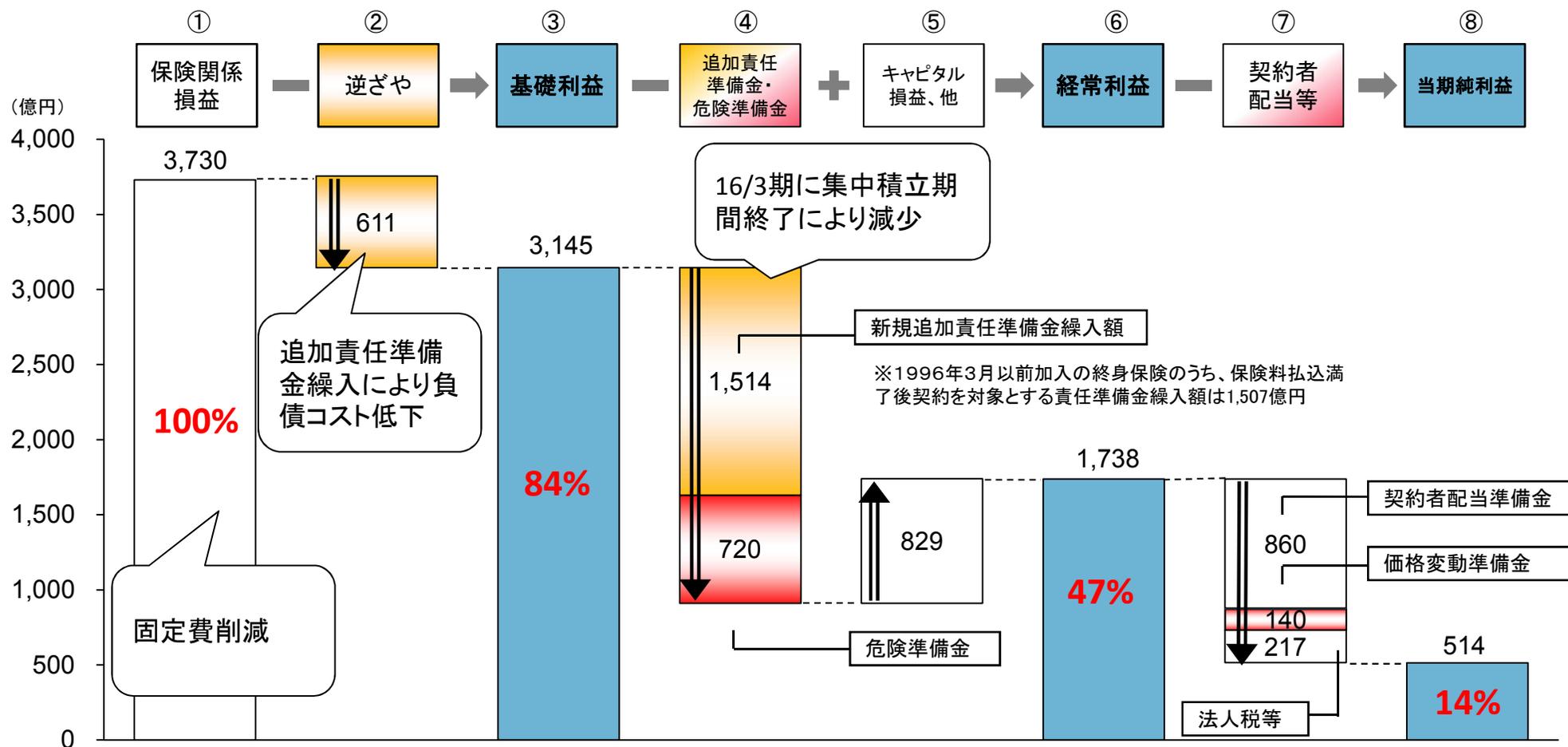
(3) 為替は、1ドン=0.0047円、1豪ドル=90.87円、1ルピー=1.65円、1バーツ=3.16円で換算。

(4) 比較対象はベトナム市場、タイ市場は保険料等収入、オーストラリア市場は保有年換算保険料(保障性市場)、インド市場は初年度保険料。

比較期間はベトナム市場、インド市場、タイ市場は2013年1月～6月、オーストラリア市場は2013年6月末。

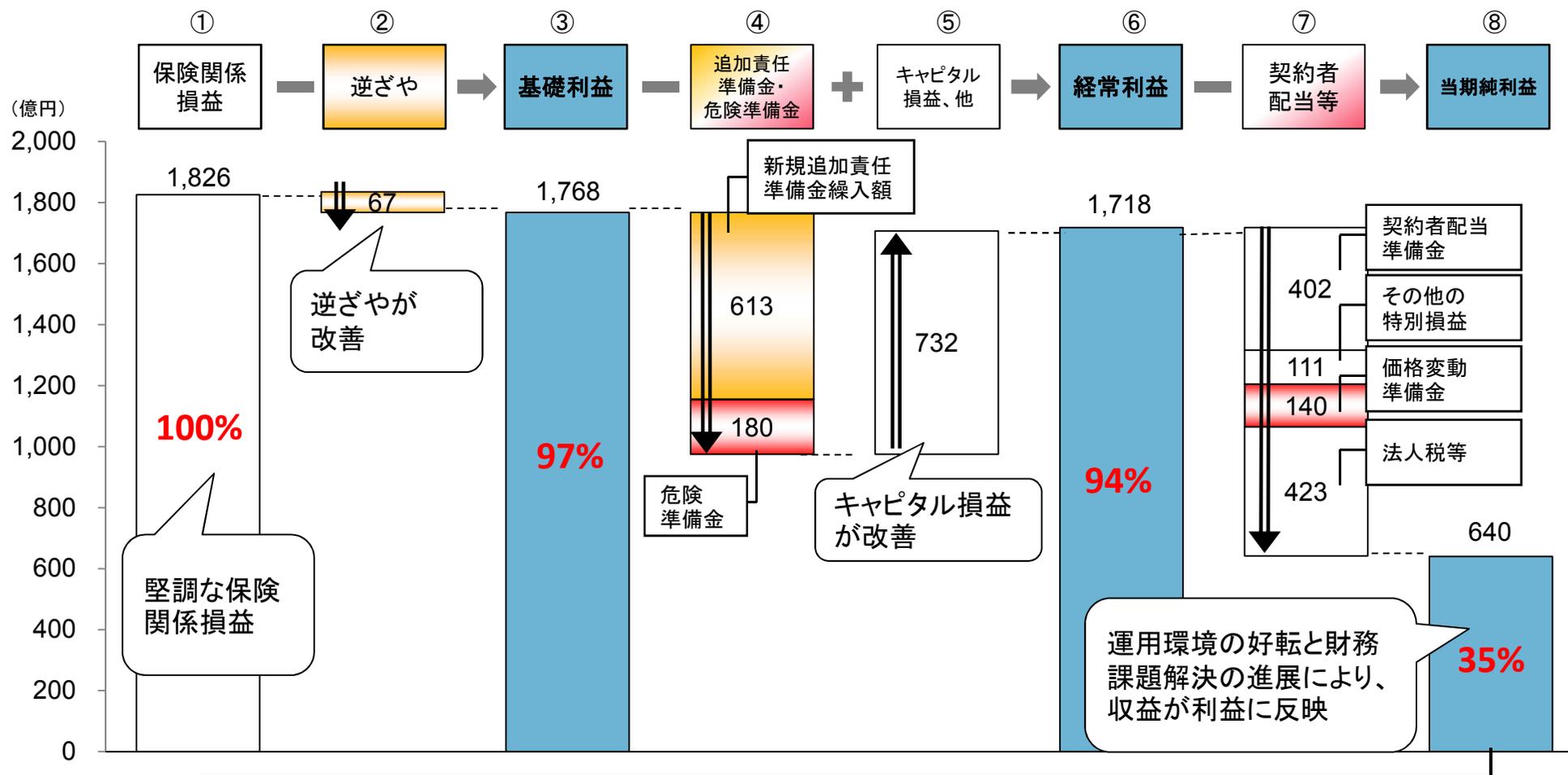
(5) 国営生保LICを除く民間生保ベースでは2.7%

成長を支える財務戦略／第一生命の収益構造(13/3期)



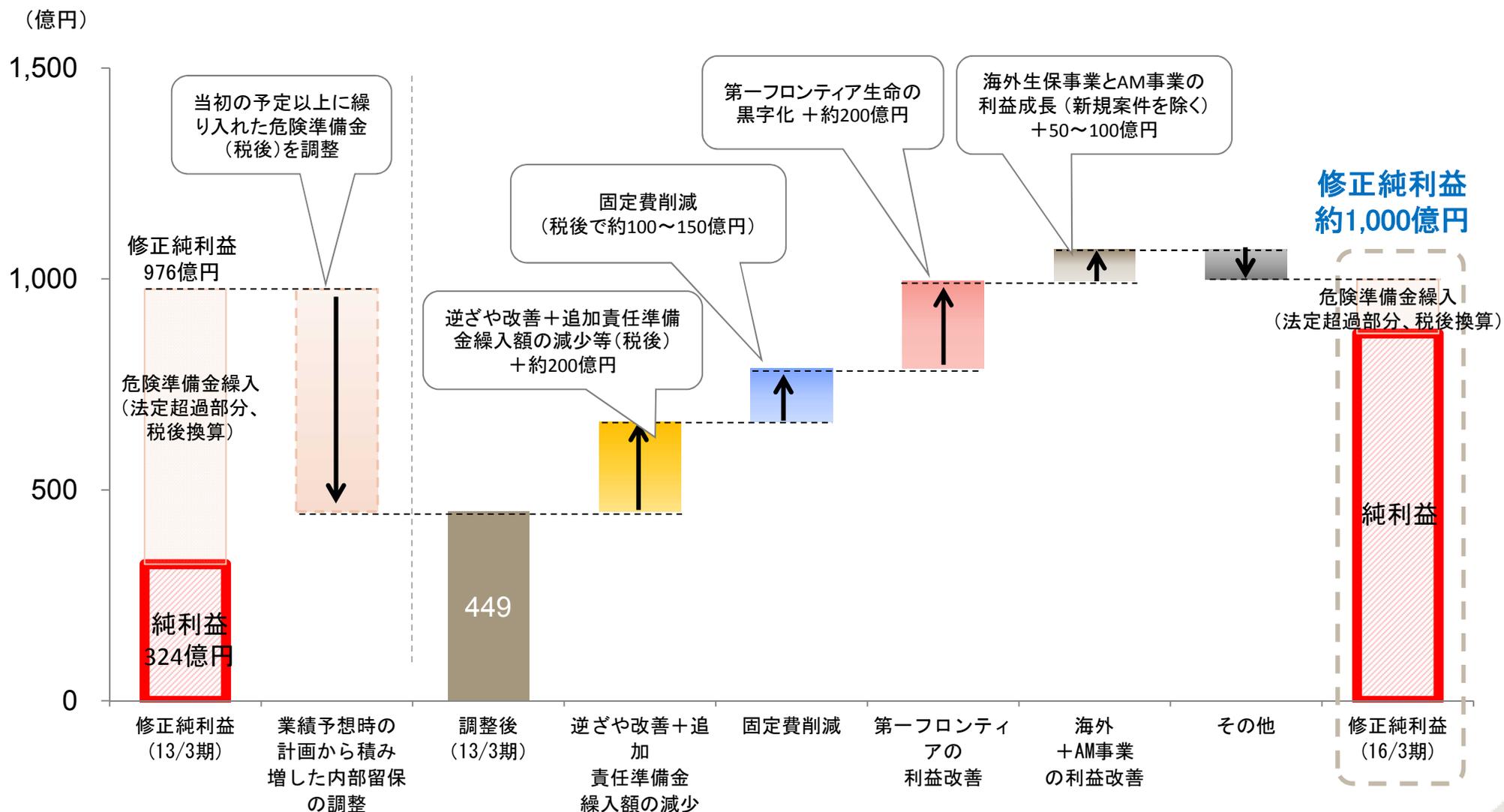
→ 第一生命単体(514) + 第一フロンティア生命(▲265) + TAL(89) + 連結調整等 = 連結当期利益(324)

成長を支える財務戦略／第一生命の収益構造(14/3期第2四半期累計)

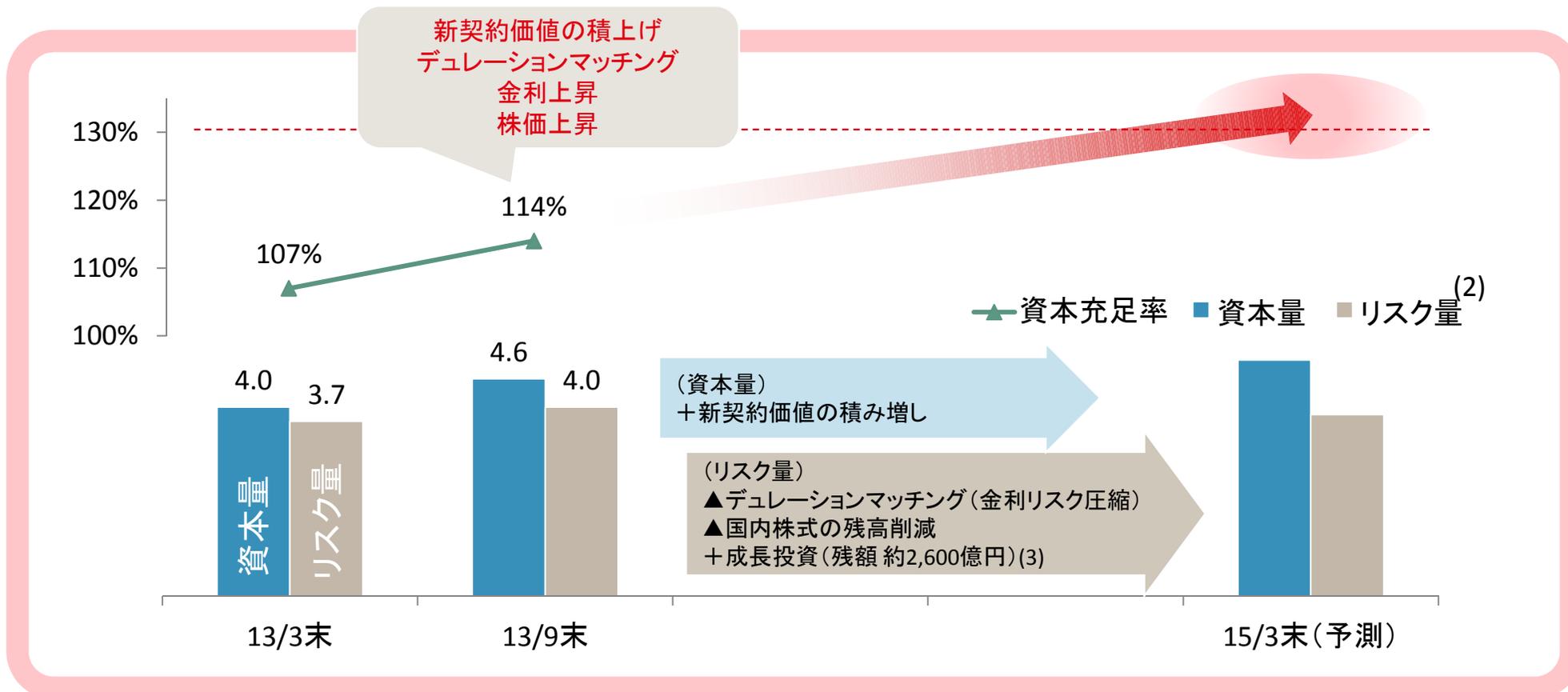


→ 第一生命単体(640) + 第一フロンティア生命(▲184) + TAL(27) + 連結調整等 = 連結当期利益(479)

成長を支える財務戦略／利益構造改革



成長を支える財務戦略／成長を支えるERM推進⁽¹⁾

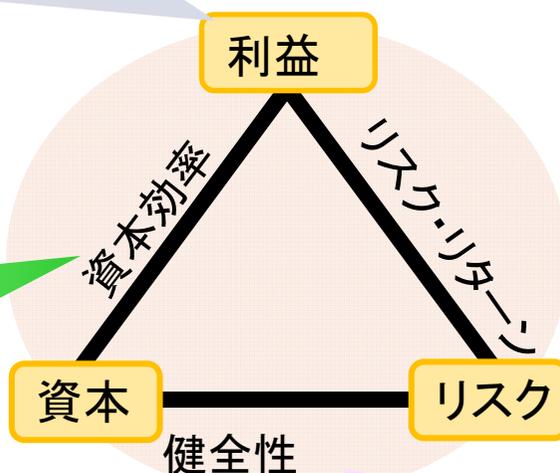


2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
(12/3末～)	信頼水準95%						新規制	信頼水準99.5%?
ソルベンシー・マージン規制 (会計ベース)							新規制 (経済価値ベース)	

(1) 経済価値ベース、内部モデルに基づいて算出(保有期間1年)。経済環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定
 (2) リスク量は税引前ベース、信頼水準99.5%
 (3) 全額投資した場合

- トップライン:16/3末のグループ保有契約年換算保険料 13/3末に比べ約7%成長
- 海外事業(海外生保・海外アセットマネジメント事業)の16/3期 連結利益貢献度 約30%
- 国内成長事業(第一フロンティア生命・DIAMアセットマネジメント社等)との合算で 同 約40%
- 効率性:14/3～16/3期で固定コストの7%を削減
- 16/3期連結修正純利益 1,000億円

- EV成長率(ROEV) = 8%を超える平均的成長
- 株主還元:中期的な目処として、総還元性向30%程度

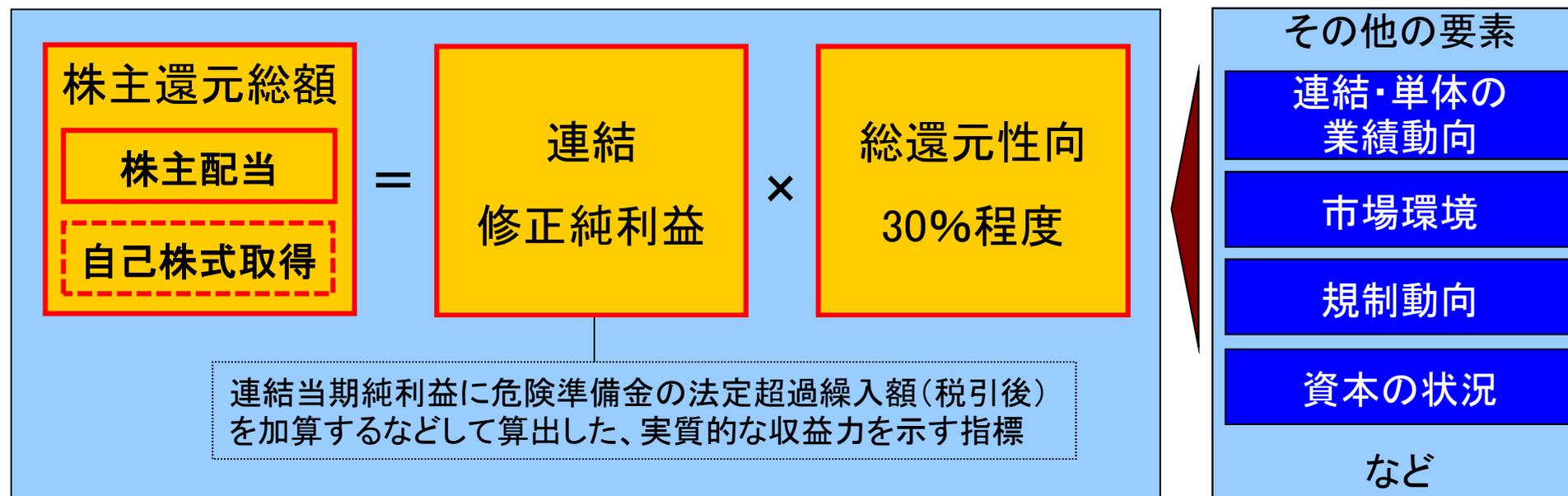


- 金利水準に応じた資産デレシオン長期化、保有株式削減

- 15/3末までにグローバル大手生保に伍する資本水準を充足 (経済価値ベース・信頼水準99.95%)

上記経営目標水準は、経済環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定しています。

【基本的な考え方】



参考データ

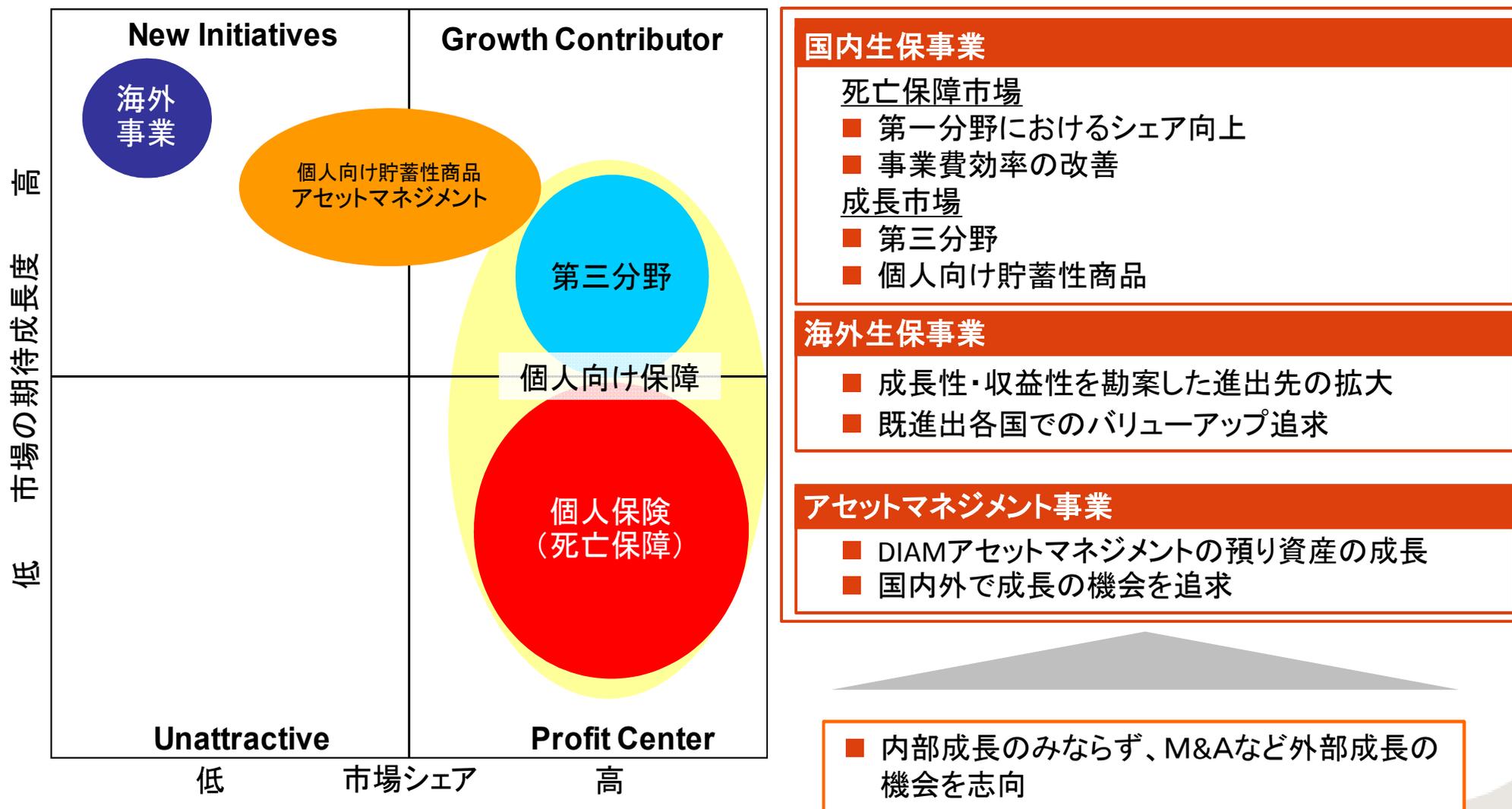
一生涯のパートナー

第一生命

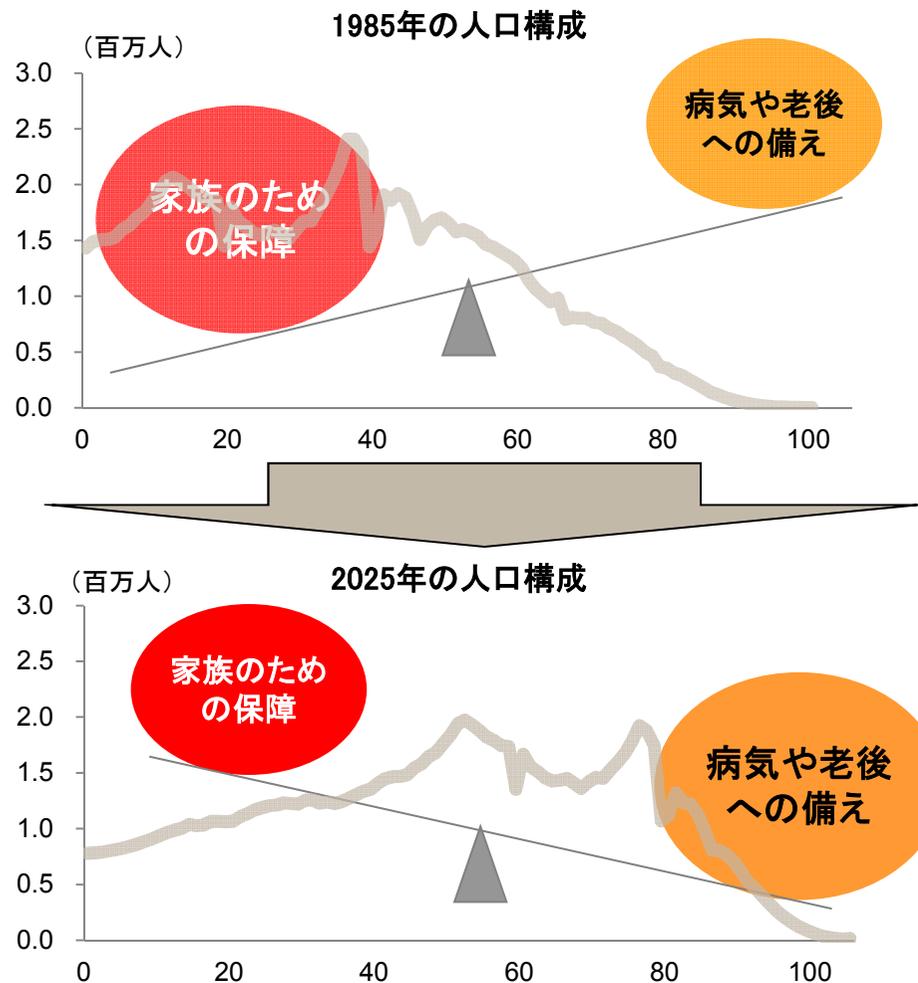
日本の生命保険市場と第一生命

一生涯のパートナー

第一生命

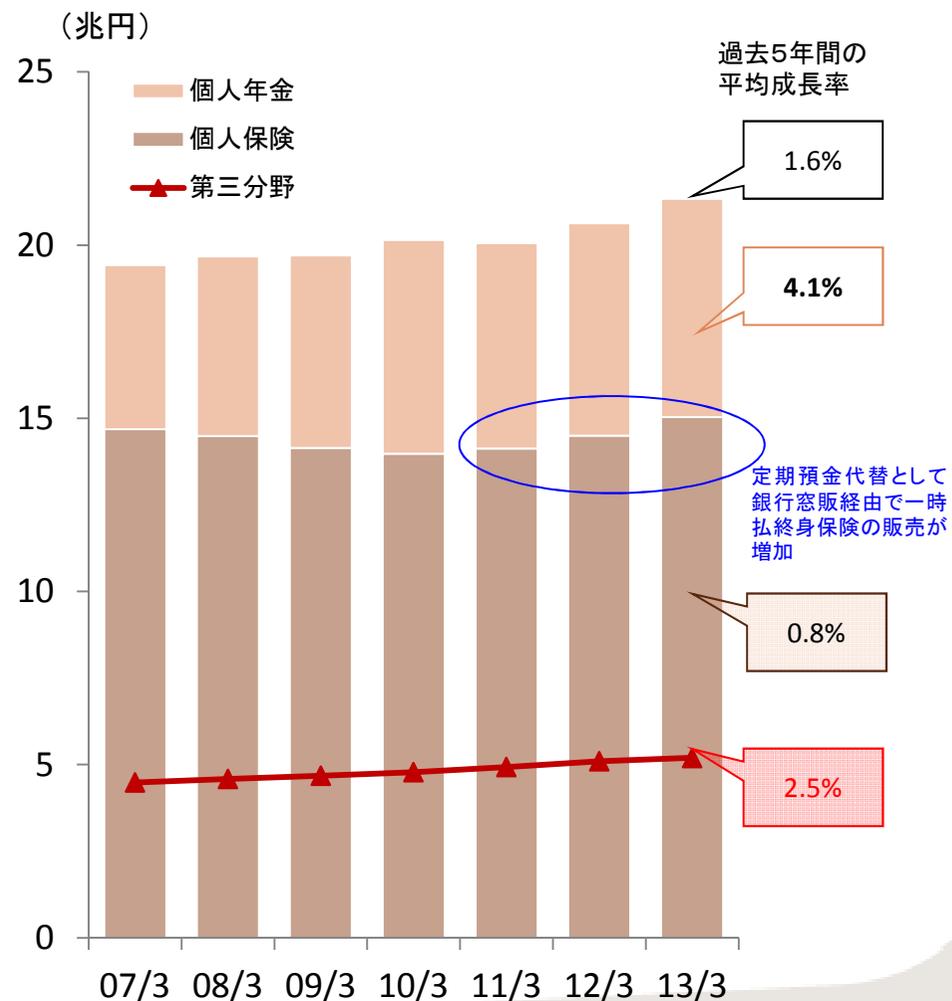


日本の人口動態と保障ニーズの変化



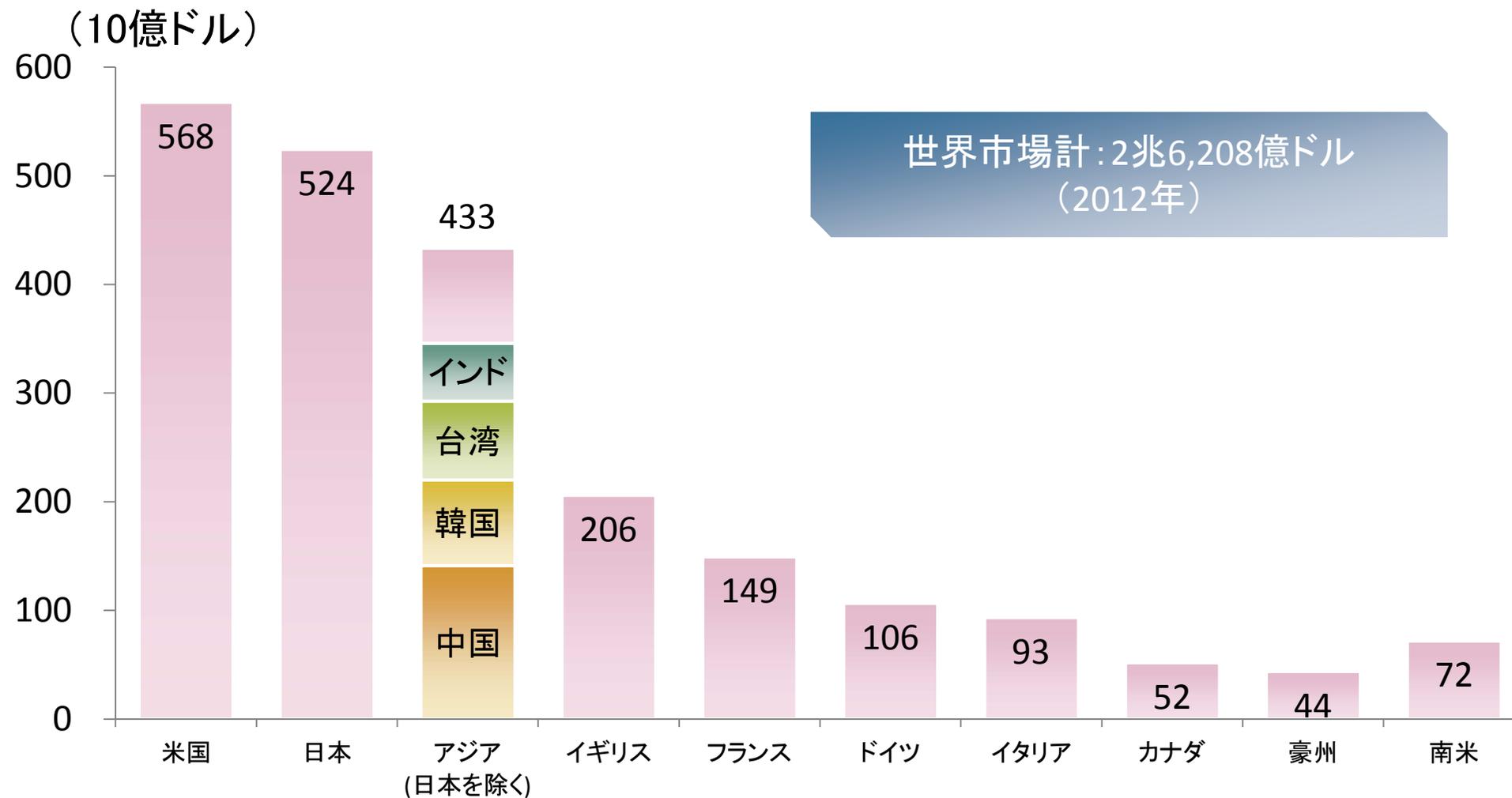
(出所) 総務省、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を基に当社作成

日本の生保 保有年換算保険料の推移

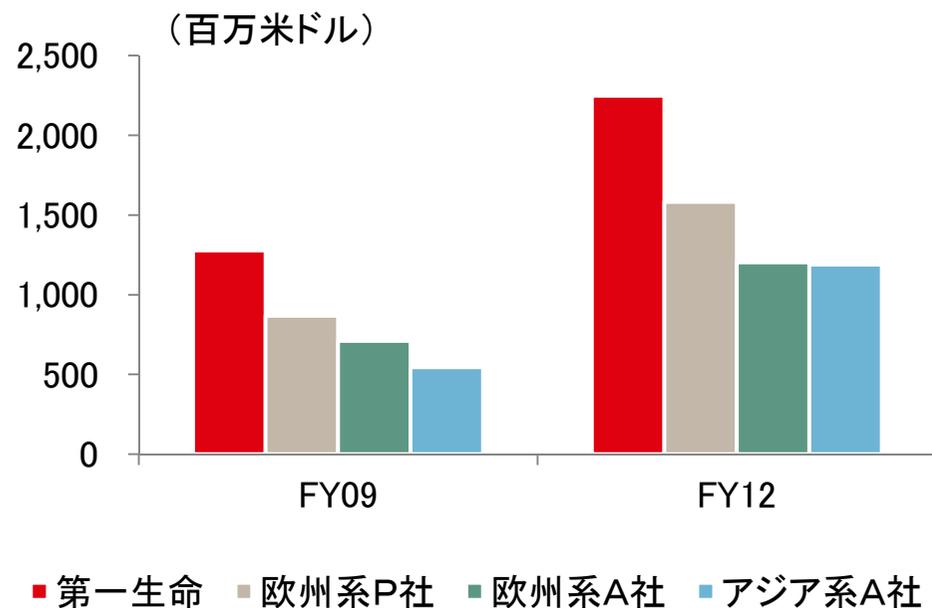


(出所) 株式会社保険研究所「インシュアランス」統計号各号、生命保険協会資料を基に当社作成

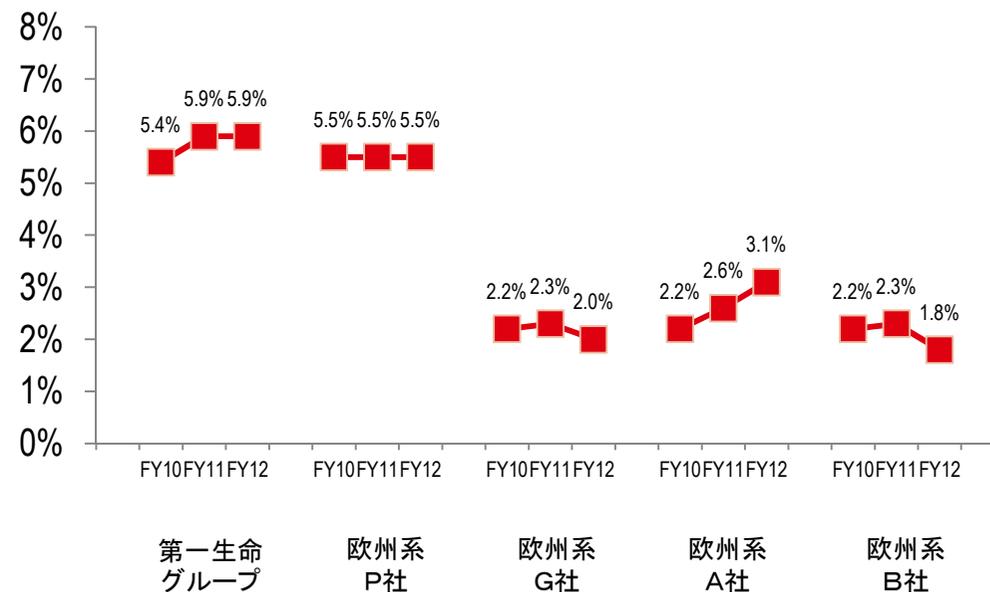
日本の生命保険市場／世界の生命保険市場の中の日本市場とアジア市場



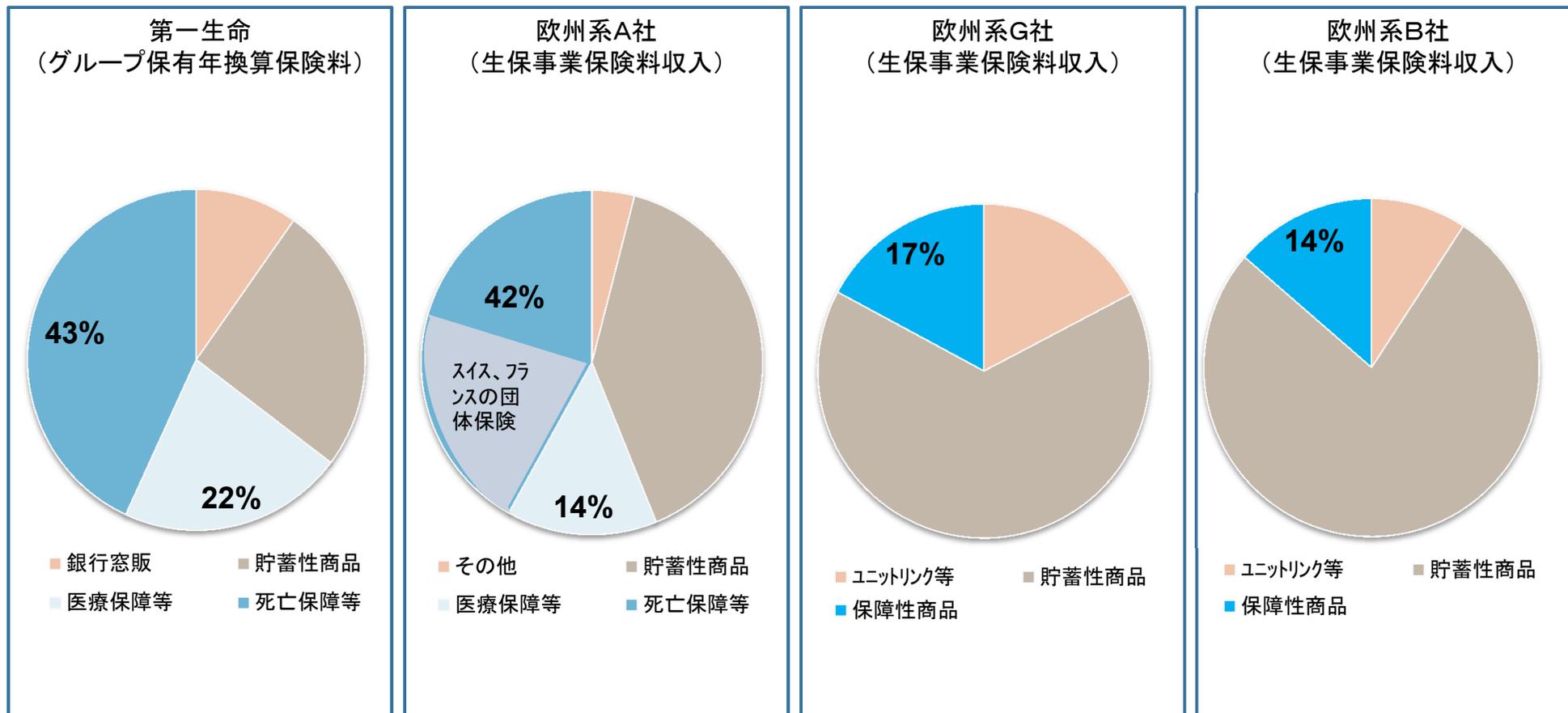
大手生保のアジア事業の新契約価値



グループ新契約マージン比較



商品種別構成比

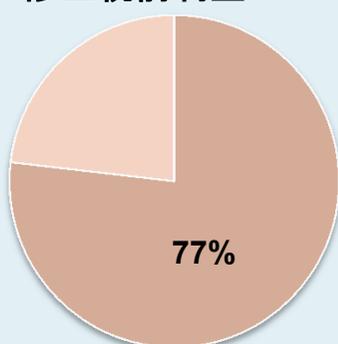
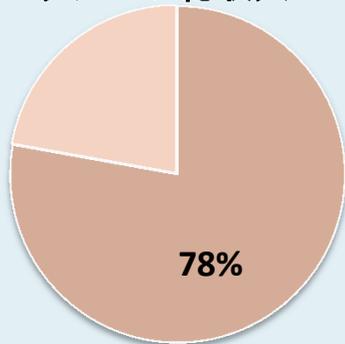


日本の生命保険市場／外資系企業による積極進出が続く

会社数 17社 (39.5%)
 保有年換算保険料 5.8兆円 (27.3%)
 うち第三分野 2.2兆円 (41.4%)

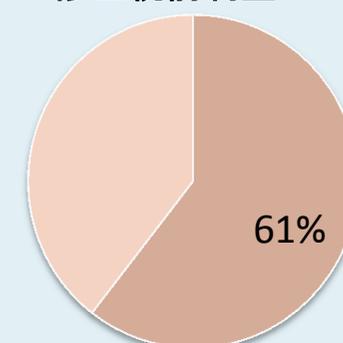
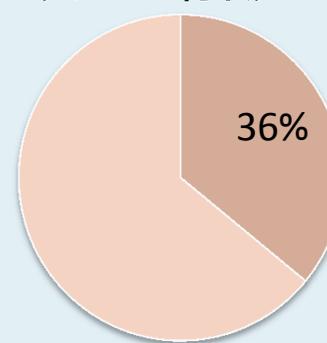
米系A社

グループ事業に占める日本事業の比率
 グループ総収入 修正税前利益



米系B社

グループ事業に占める日本事業の比率
 グループ総収入 修正税前利益

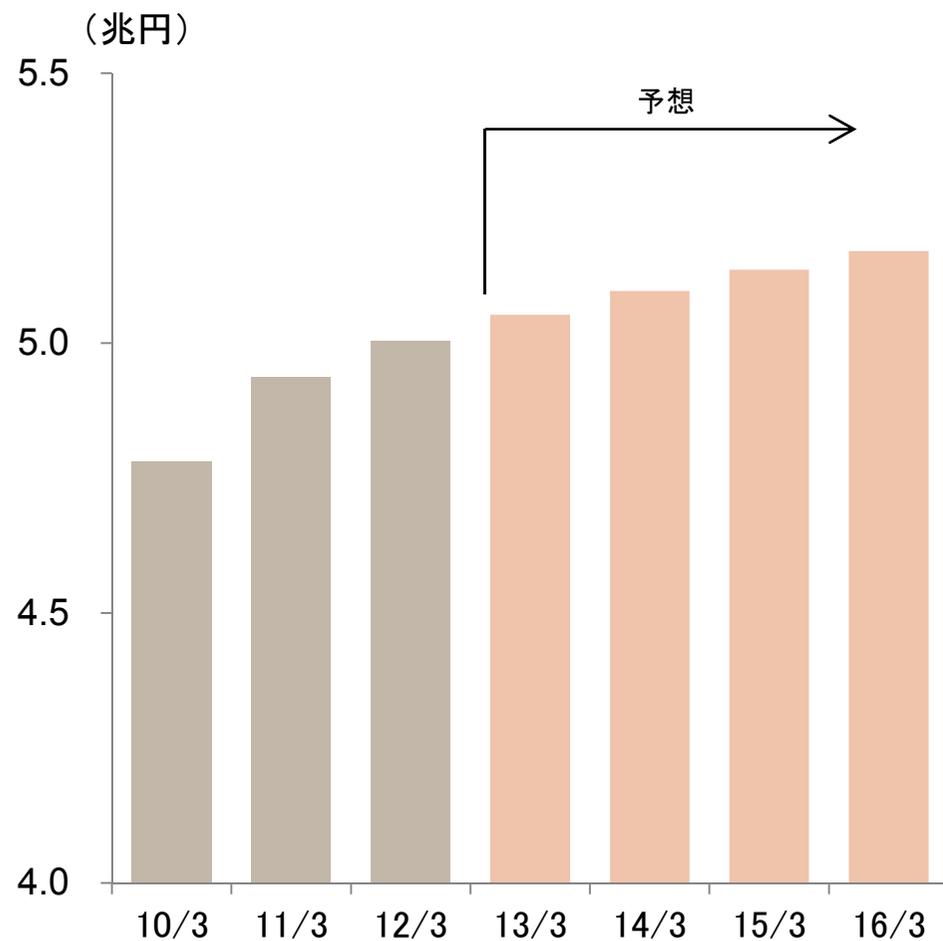


※連結調整前

日本事業は主要外資系生保の収益の柱。最近でも外資系生保による日本事業の強化が続く

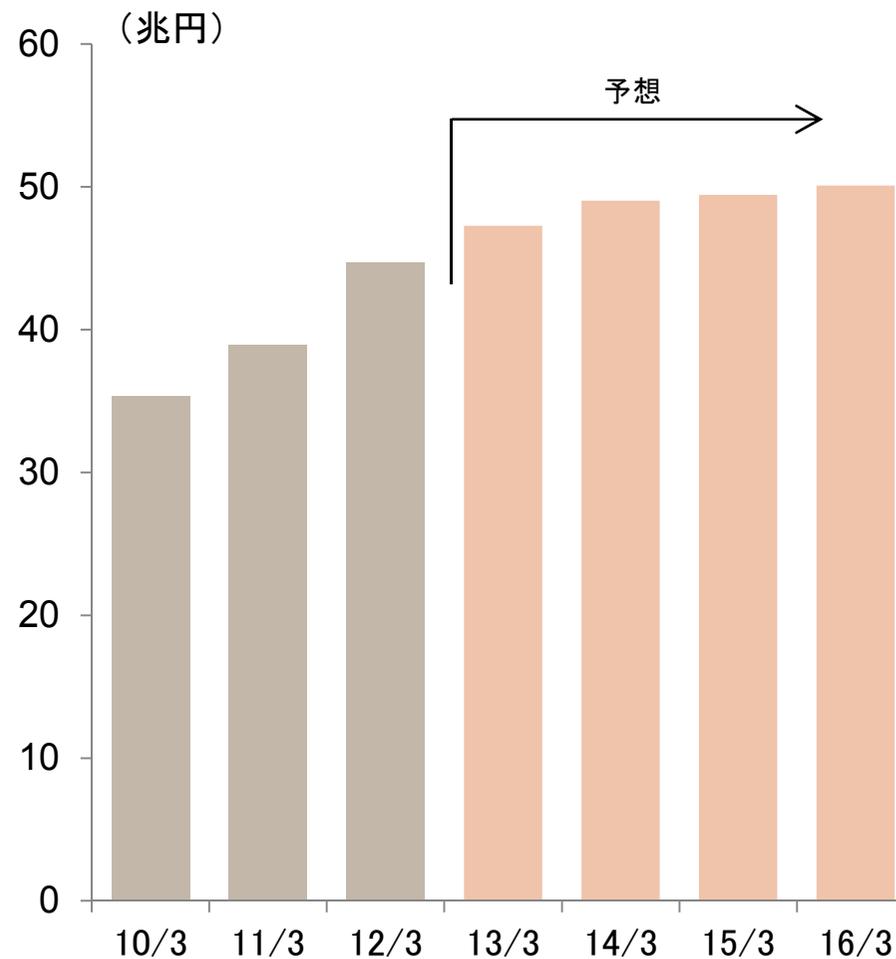
- 2010年2月、アクサ ジャパン ホールディングスはソフトバンク・SBIホールディングスとの合併会社SBIアクサ生命の合併を解消。現在は全額出資子会社化
- 2010年3月、メットライフはAIGからアリコを155億ドルで買収することで合意、現金拠出額68億ドルのうち、社債発行(30億ドル)・公募増資(30億ドル)により調達。
- 2010年9月、プルデンシャル・フィナンシャルはAIGからAIGスター生命・AIGエジソン生命の2社を48億ドルで買収することで合意。

第三分野 年換算保険料の推移と予想



(出所) 当社予想

一時払個人年金資産残高の推移

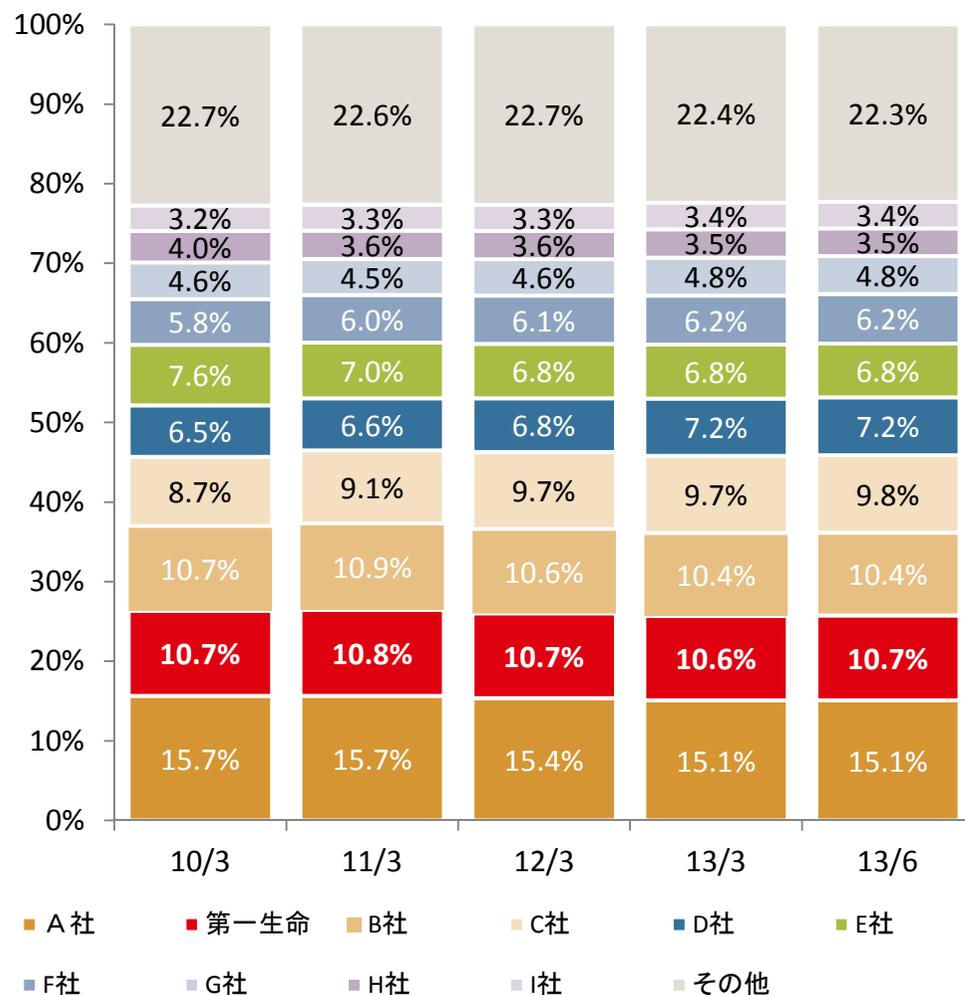


日本の生命保険市場／激しい競争下、相対的にシェアを維持

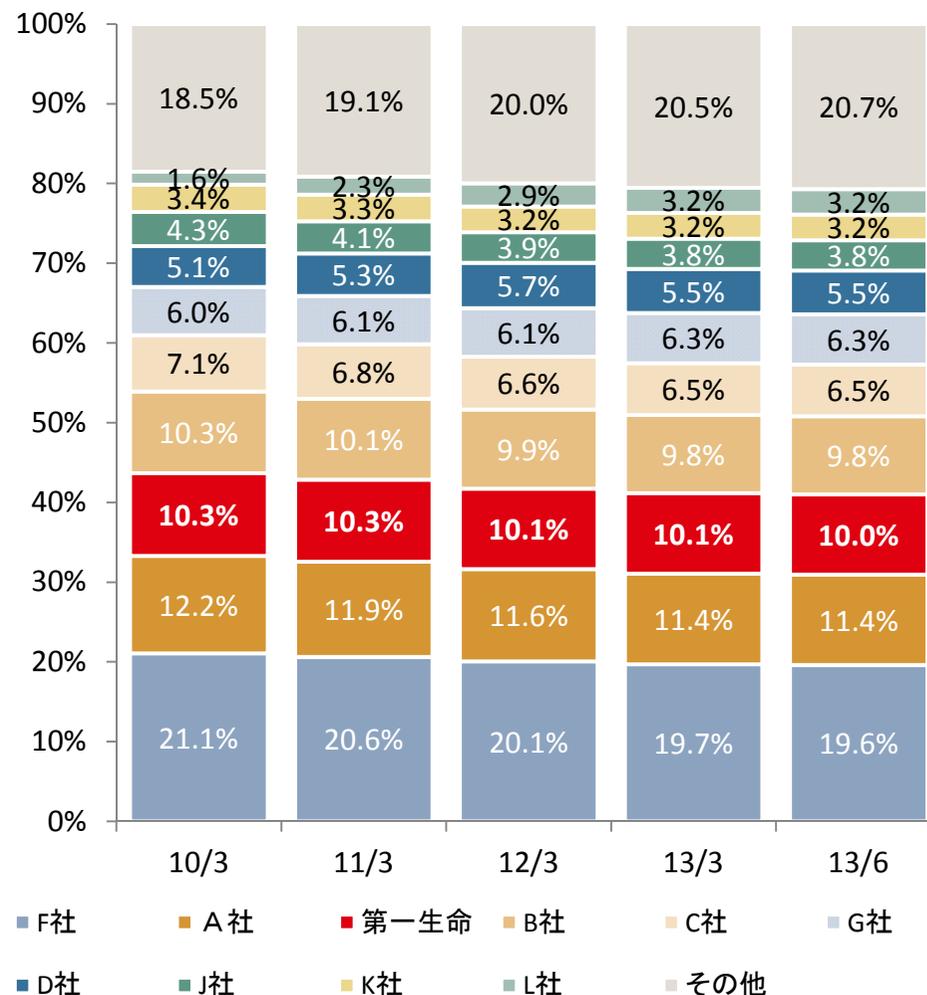
一生涯のパートナー

第一生命

保有契約年換算保険料シェア推移



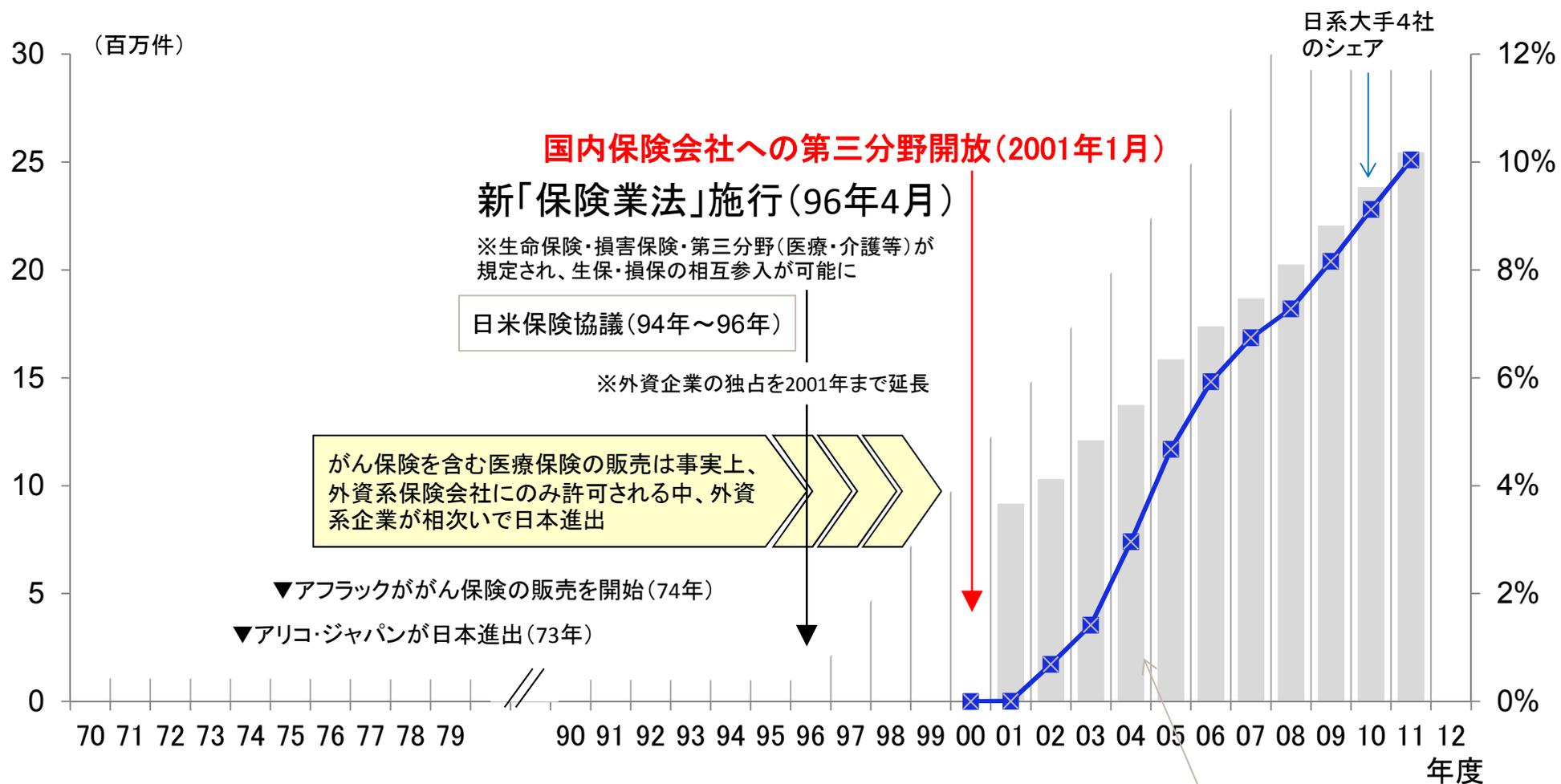
第三分野 保有契約年換算保険料シェア推移



(注) 保有年換算保険料シェア、第三分野保有年換算保険料シェアはかんぽ生命を除く。

(出所) 生命保険協会資料を基に当社作成

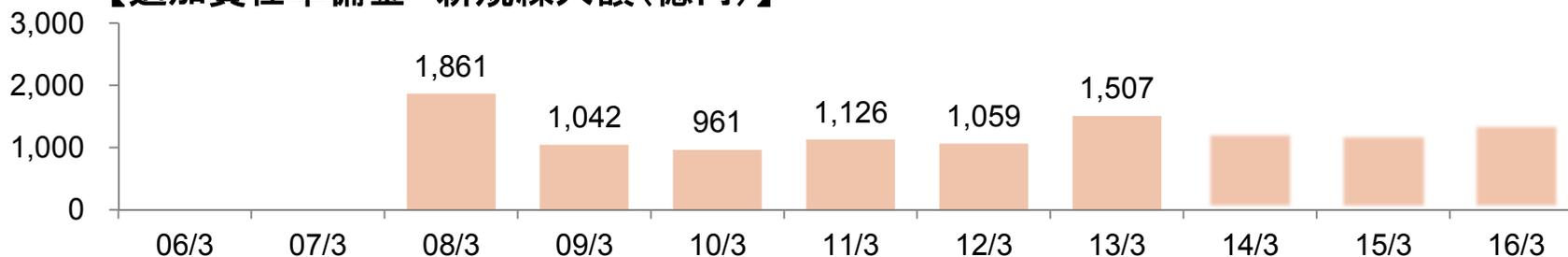
医療保険の保有契約件数と日本の大手生命保険会社4社⁽¹⁾のシェア



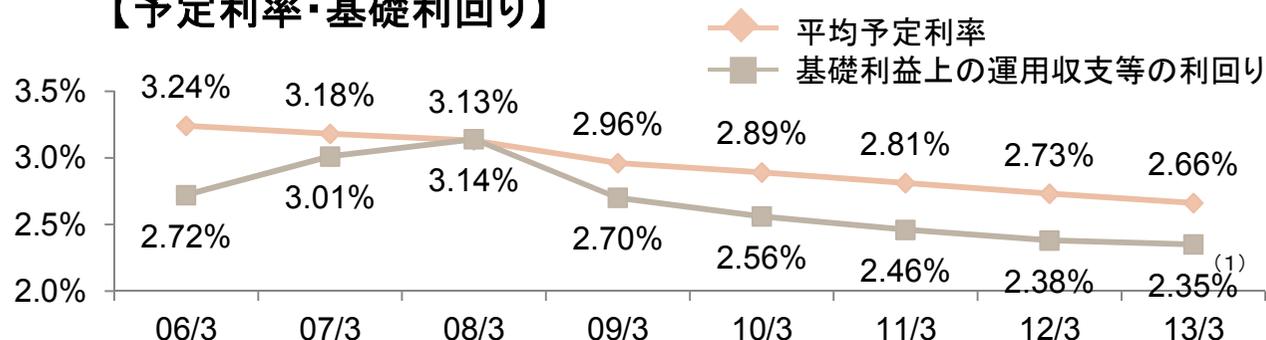
(1) 第一生命、日本生命、明治安田生命、住友生命(メディケア生命含む)の保有契約件数の合計
 (出所) インシュランス各年号を基に当社作成

市場規模(医療保険の保有契約件数)

【追加責任準備金 新規繰入額(億円)】



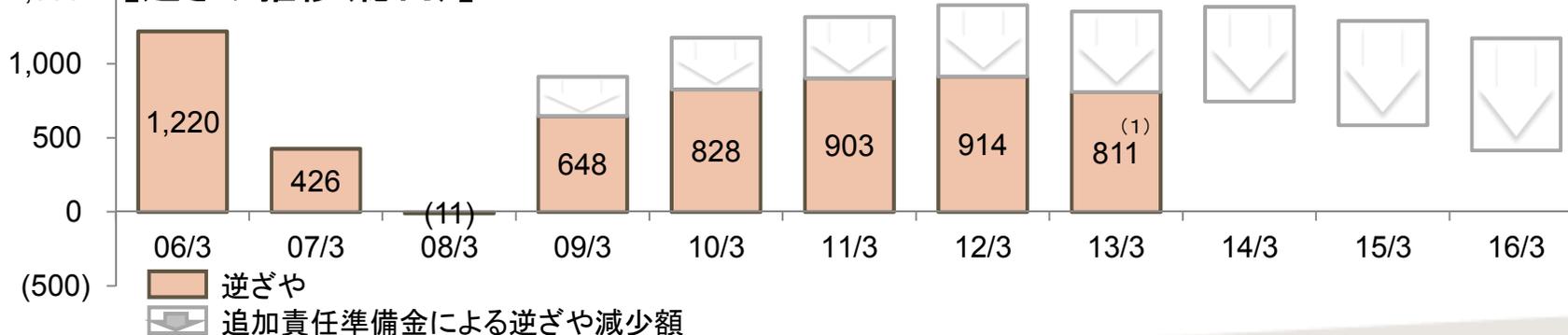
【予定利率・基礎利回り】



利息及び配当金等収入の内訳(13/3期)



【逆ざや推移(億円)】



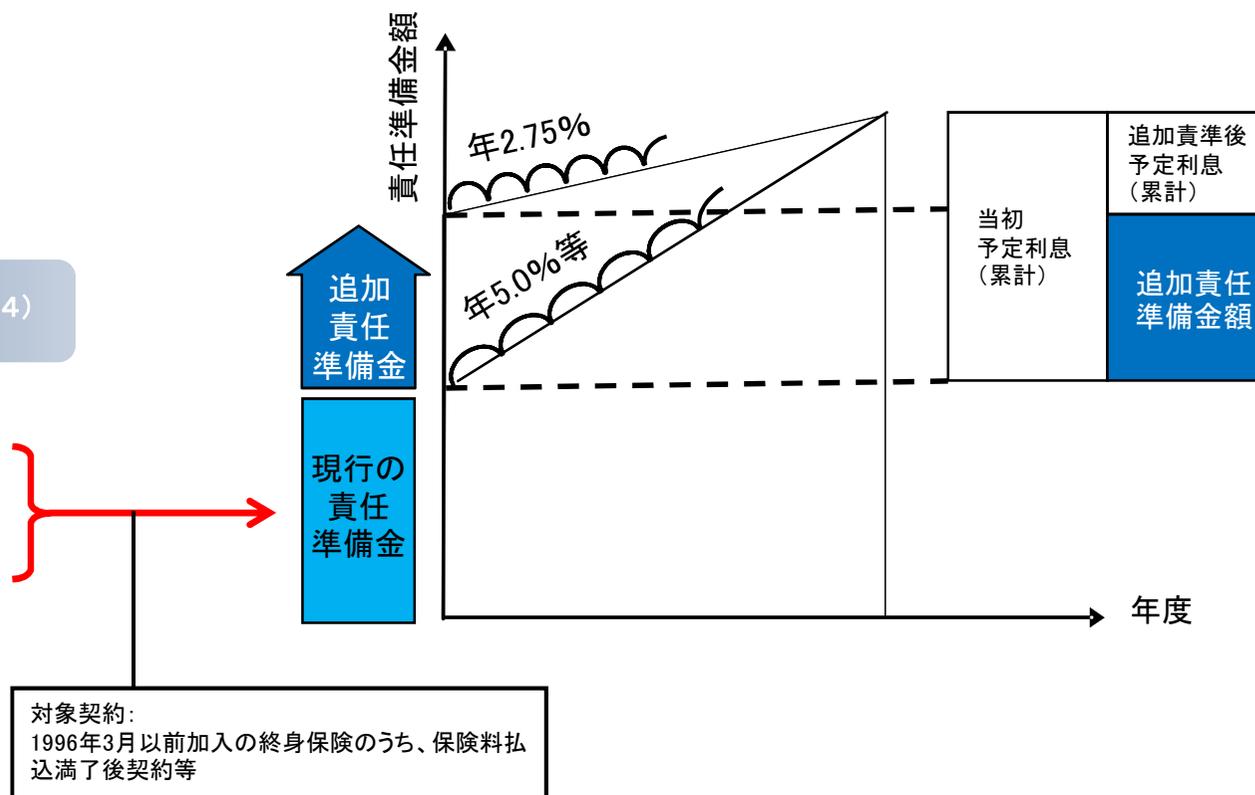
(1) 13/3期の運用収支等の利回り及び逆ざや額は、証券化した住宅ローン等債権の劣後受益権売却益を控除したベースで再計算している。

追加責任準備金の積み立てのイメージ⁽¹⁾

契約年度別・責任準備金残高^{(1)~(4)}

(億円)

契約年度	責任準備金残高	予定利率
~81/3期	8,493	2.75%~5.50%
82/3~86/3期	14,768	2.75%~5.50%
87/3~91/3期	47,734	2.75%~6.00%
92/3~96/3期	40,692	2.75%~5.50%
97/3~01/3期	16,553	2.00%~2.75%
02/3~06/3期	24,111	1.50%
07/3~11/3期	40,927	1.50%
12/3期	10,333	1.50%
13/3期	10,463	1.50%



- (1) 第一生命単体ベース
- (2) 個人保険及び個人年金保険の責任準備金(特別勘定の責任準備金及び危険準備金を除く)のみ表示しています。
- (3) 契約年度別内訳については、一部保険数理に基づく合理的な方法により契約年度別に配賦しています。
- (4) 予定利率については、各契約年度別の責任準備金に係る主な予定利率を表示しています。

第一生命単体／生命保険事業の収益構造

一生涯のパートナー

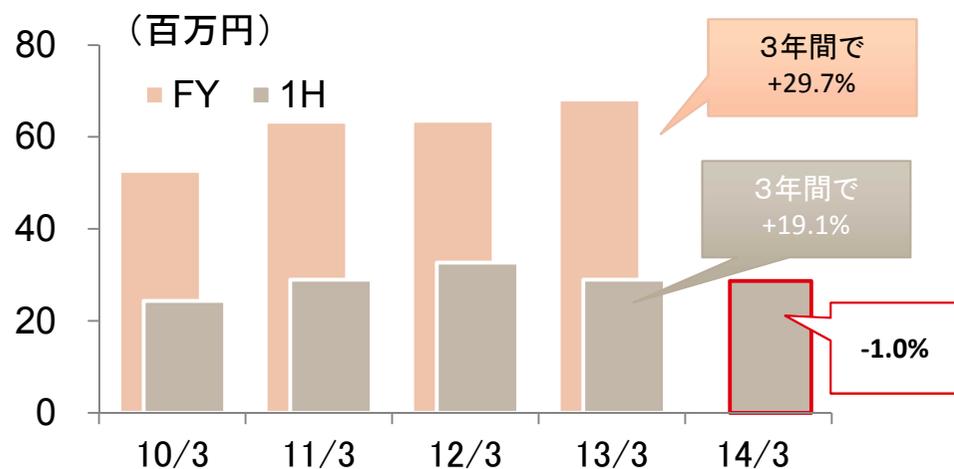
第一生命

(単位: 億円)

		09/3期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期
基礎利益	a	3,608	3,301	2,759	3,024	3,145
(加) 最低保証に係る責任準備金繰入額(マイナスは戻入額)	b	58	-37	2	-4	-26
修正基礎利益	c	3,666	3,263	2,762	3,019	3,118
うち利差損益	d	-648	-828	-903	-914	-611
うち保険関係損益	e	4,315	4,092	3,665	3,933	3,730
(減) 追加責任準備金新規繰入額	f	1,091	974	1,136	1,066	1,514
(減) 危険準備金繰入(マイナスは戻入額)	g	-4,780	180	-250	-790	720
(加) キャピタル損益	h	-6,196	-65	-1,079	-310	828
(加) その他臨時損益	i	-67	-108	-6	4	25
経常利益	j	1,091	1,936	789	2,437	1,738
(加) その他特別損益	k	-94	-96	-67	-343	-6
(減) 契約者配当準備金繰入額	l	649	925	785	690	860
(減) 価格変動準備金繰入額(マイナスは戻入額)	m	-1,200	140	-350	-60	140
(減) 法人税等	n	891	166	117	1,287	217
(法定実効税率)	o	36.08%	36.08%	36.08%	33.22%	33.23%
当期純利益	p	655	608	169	176	514
税引後基礎利益 (c-l) × (1-o)	q	1,928	1,495	1,263	1,555	1,508
税引後基礎利益 (c-f-l) × (1-o)	r	1,231	872	536	843	496
純資産	s	6,198	10,003	7,664	10,283	16,776
(減) うち評価・換算差額等合計	t	-1,101	3,956	1,736	4,178	10,537
(加) 負債中の危険準備金(税前)	u	5,090	5,270	5,020	4,230	4,950
(加) 負債中の価格変動準備金(税前)	v	1,014	1,154	804	744	884
修正純資産(税後)	w	11,202	10,154	9,651	9,428	10,135
ROE (q÷w)	x	14.9%	14.0%	12.8%	16.3%	15.4%
ROE (r÷w)	y	9.5%	8.2%	5.4%	8.8%	5.1%

第一生命単体／契約の質・事業費効率の改善が新契約価値を押し上げ

第一生命単体／営業職員あたり収入保険料現価の推移

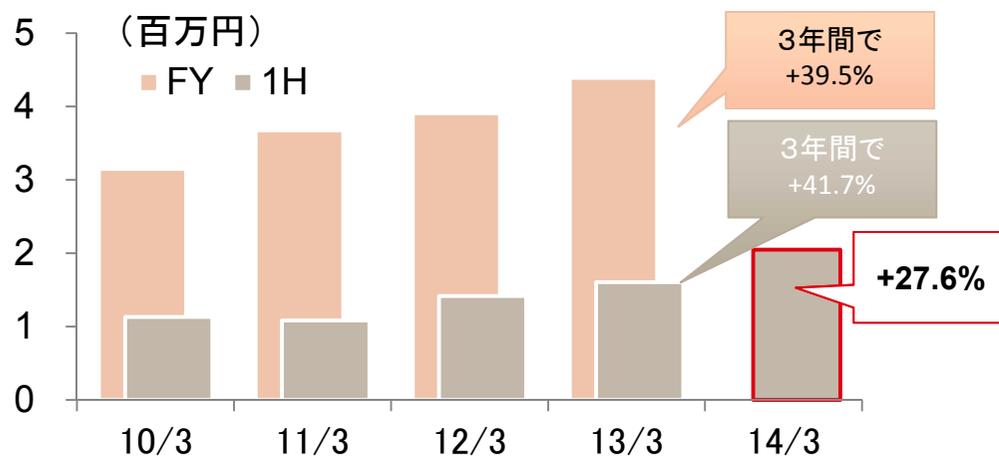


商品・チャ
ネル強化

事業費効率
の改善

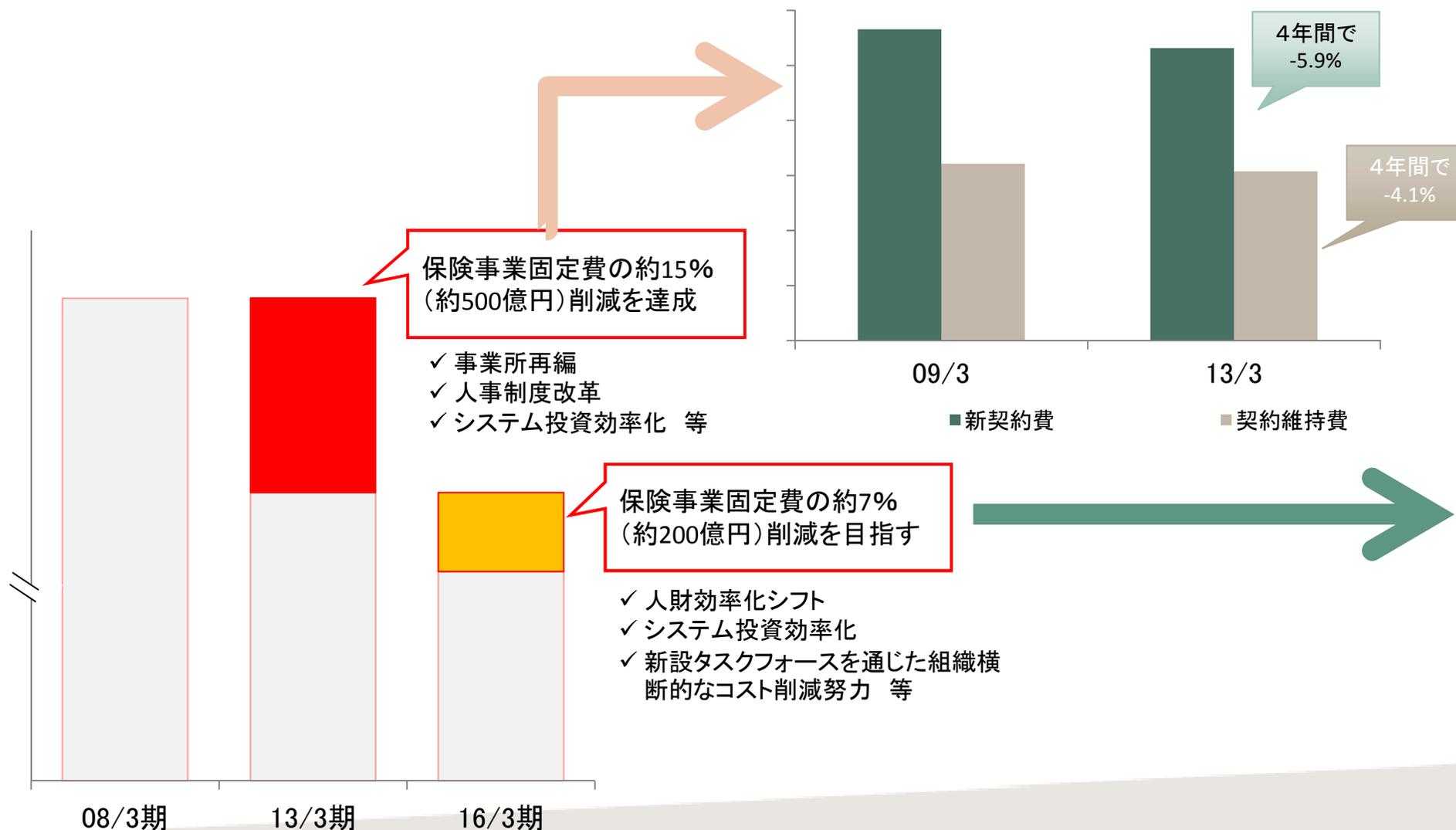
解約失効率
の改善

第一生命単体／営業職員あたり新契約価値の推移



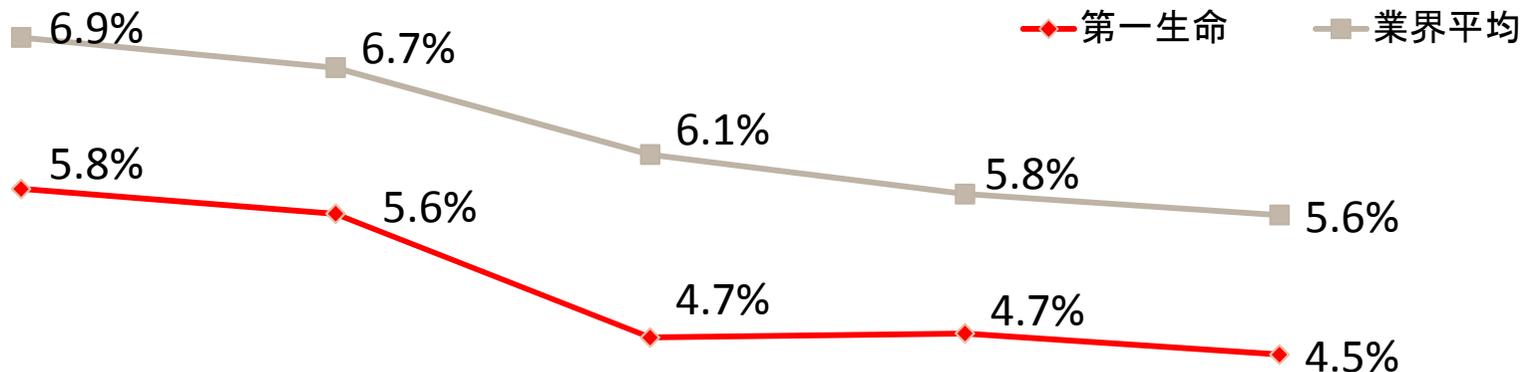
第一生命単体／固定費削減計画

個人保険・個人年金の事業費の推移



第一生命単体／Face to Faceのお客さまフォローにより解約失効率は大幅に改善

解約失効率 (通期)



解約失効率 (上半期)



郵送した生涯設計レポートを基に、①ご契約内容、②お支払履歴、③登録内容を毎年確認。

約820万名のご契約者さまへのご案内活動

株式会社化総訪問活動

災害救助法適用地域のお客さまの元へご訪問。現在までに99.99%のお客さまの安否を確認

東日本大震災お客さま安否確認

入金ご案内活動

継続率目標基準引上

お客さま総訪問活動 (1997～)

2008

2009

2010

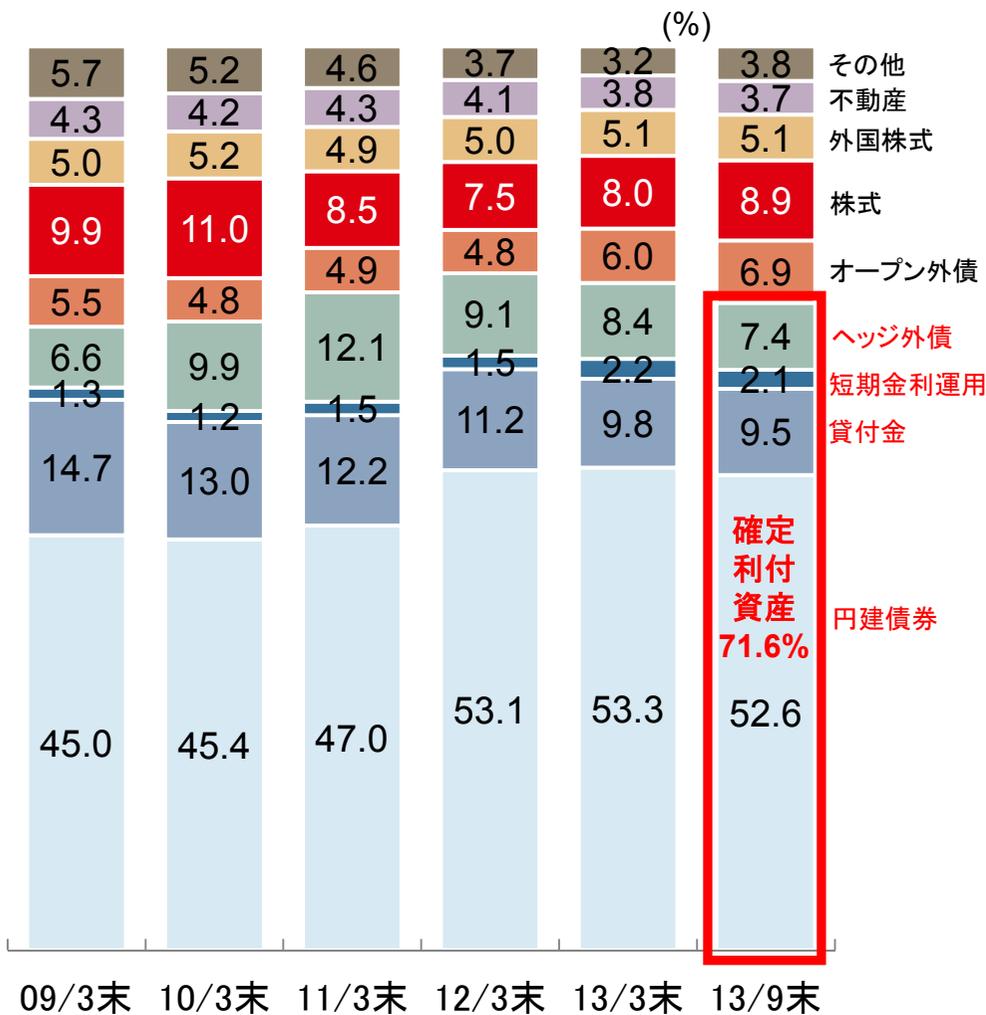
2011

2012

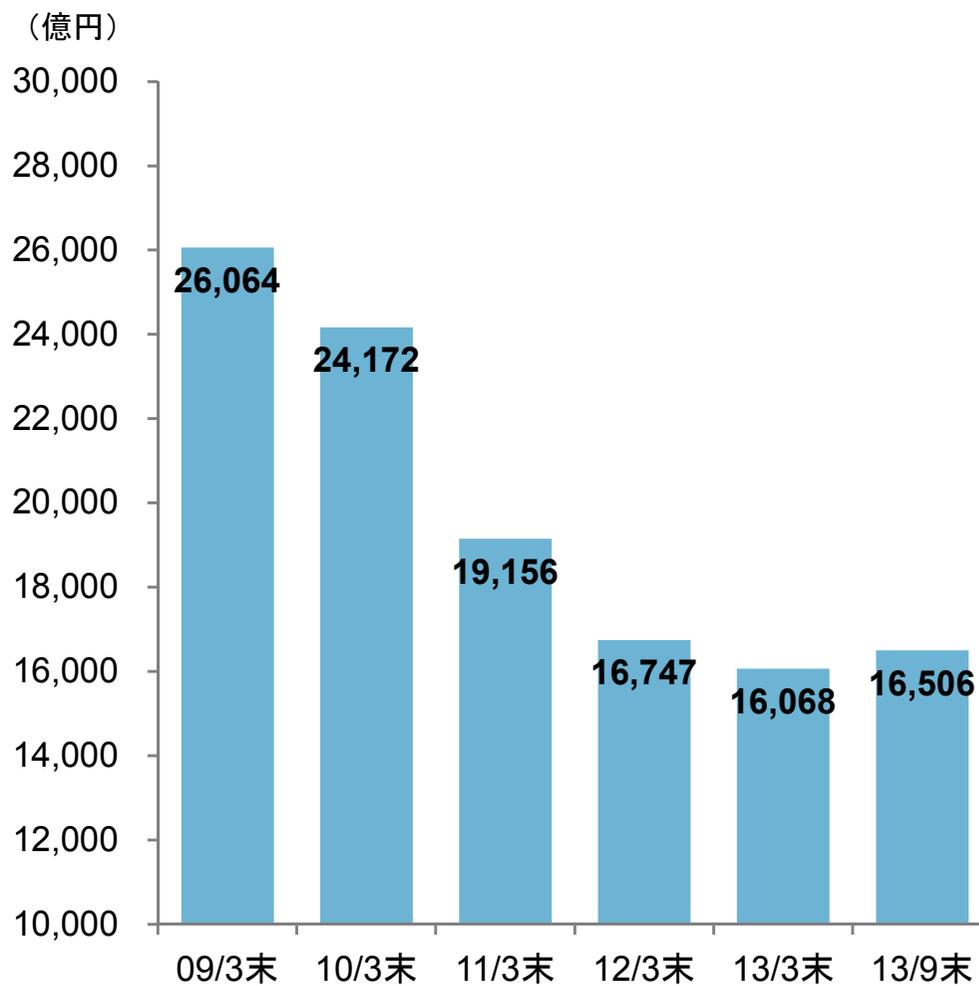
2013 1H

第一生命単体／一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成(一般勘定) (1)

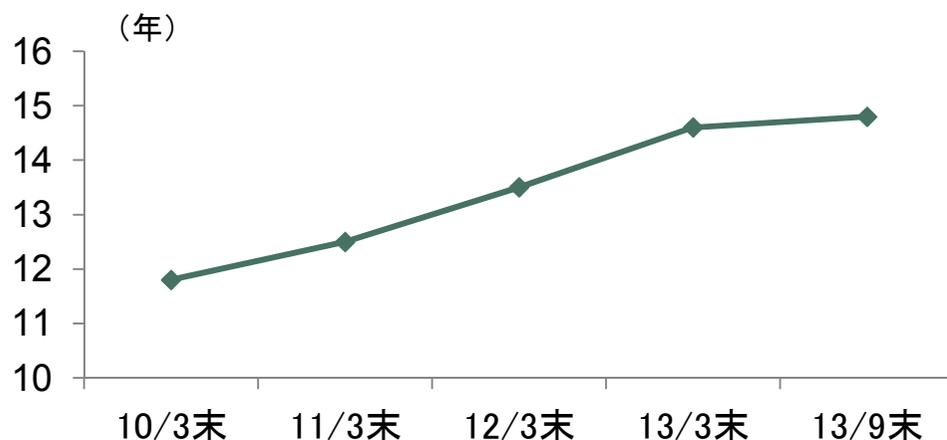


国内株式の簿価 (2)

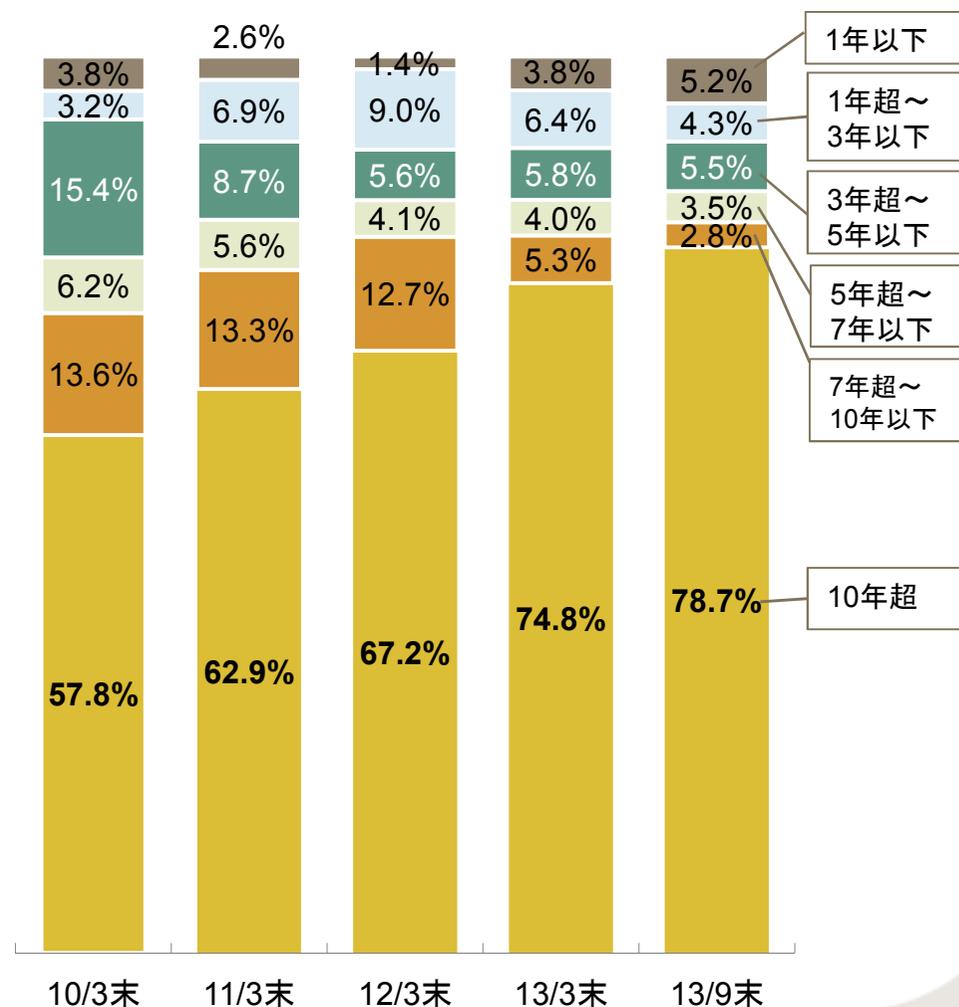


(1) 貸借対照表価額ベース
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

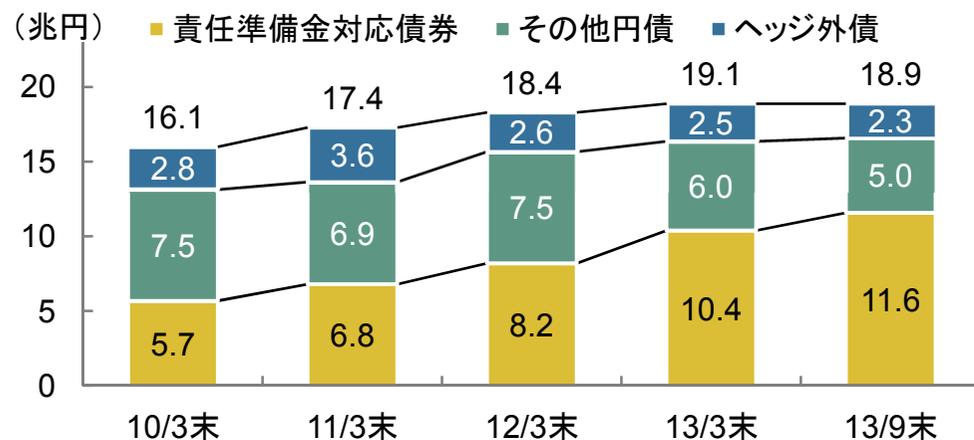
確定利付資産のデュレーション



国内債券の残存期間 (2)



債券の積み増し状況 (1)



(1) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース

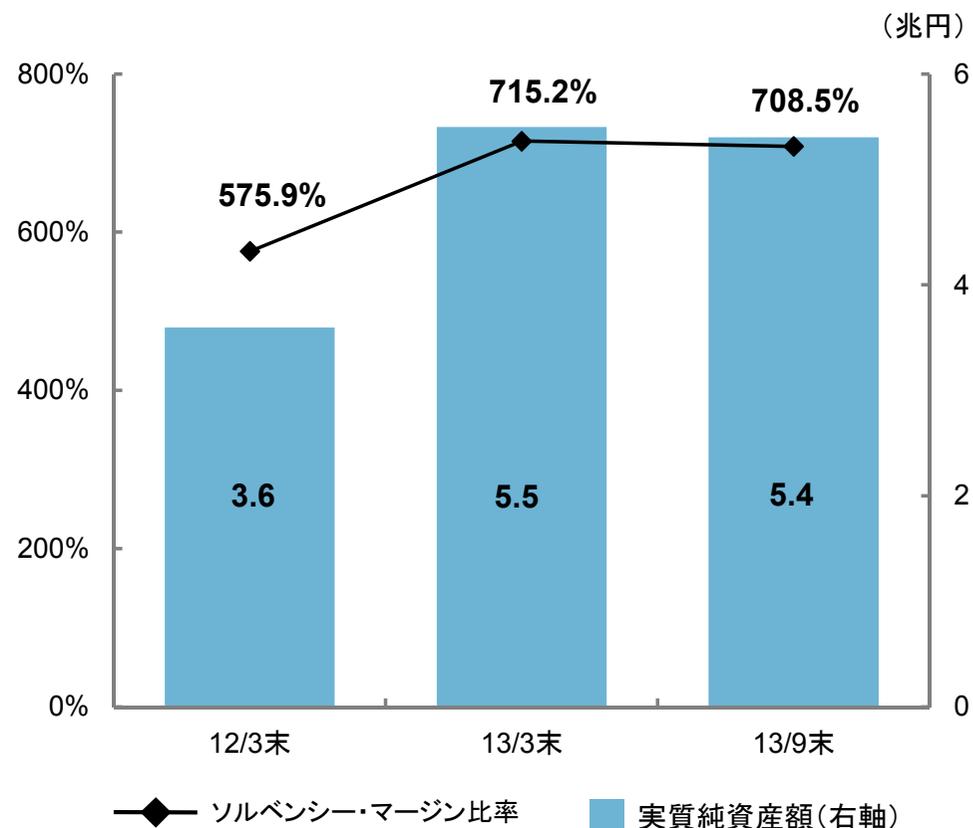
(2) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。時価ベース

含み損益(一般勘定)

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
有価証券	28,144	26,152	△1,992
国内債券	16,275	12,394	△3,880
国内株式	6,433	9,074	+2,641
外国証券	5,050	4,298	△751
不動産	214	277	+62
その他共計	28,339	26,387	△1,951

ソルベンシー・マージン比率
および実質純資産額



<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:
2013年9月末 688.8%

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	<p>日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2013年3月末:1,700億円)</p>	<p>日経平均株価 ¥9,100 (2013年3月末:¥8,600)</p>
国内債券	<p>10年国債利回り 10bpの変動で 2,400億円の増減※ (2013年3月末:2,400億円)</p> <p>※その他有価証券区分:400億円の増減 (2013年3月末:500億円)</p>	<p>10年国債利回り 1.2%※ (2013年3月末:1.2%)</p> <p>※その他有価証券区分:1.4% (2013年3月末:1.4%)</p>
外国証券	<p>ドル／円 1円の変動で 280億円の増減 (2013年3月末:260億円)</p>	<p>ドル／円 \$1 = ¥88 (2013年3月末:¥84)</p>

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

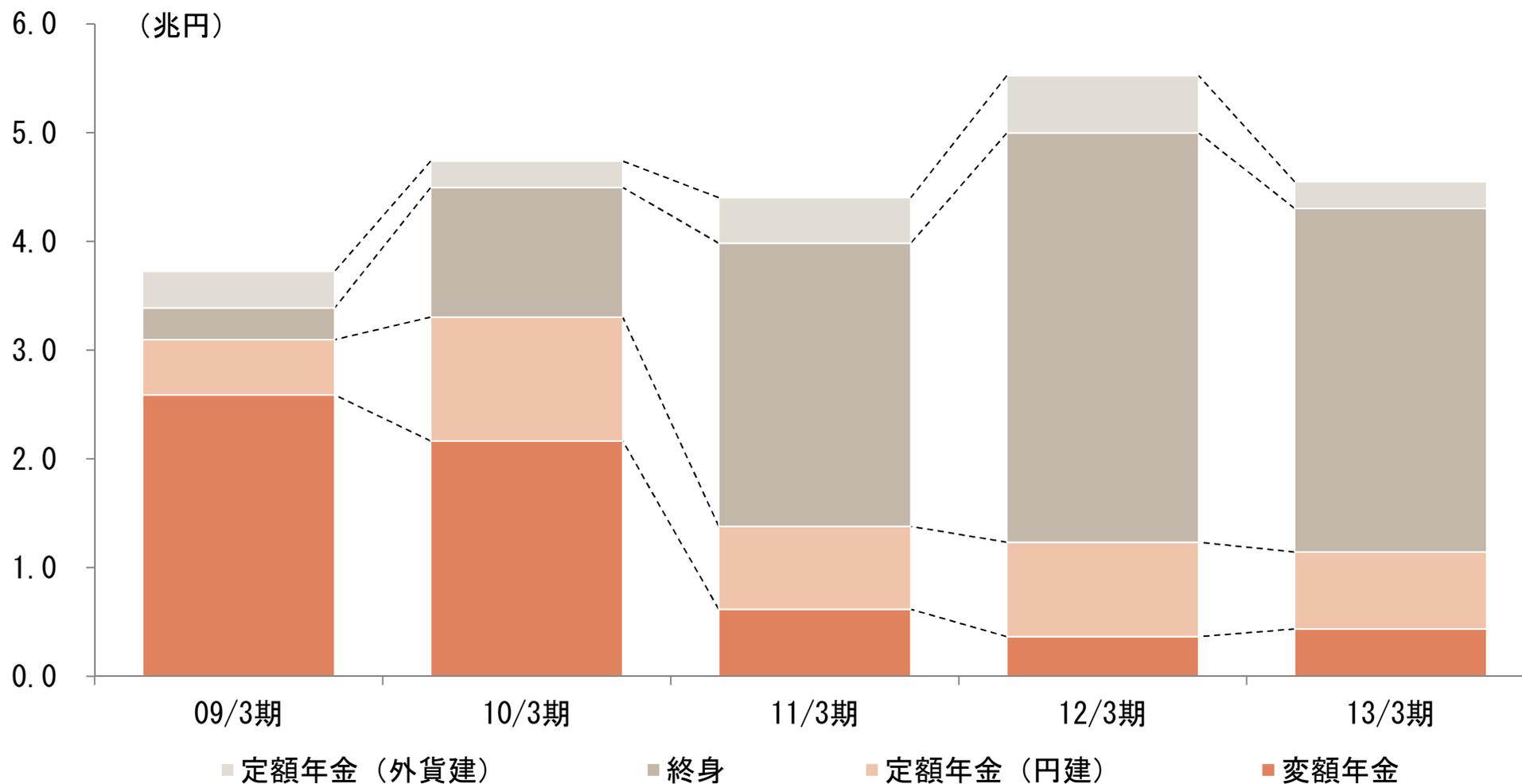
(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

銀行窓販市場

一生涯のパートナー

第一生命

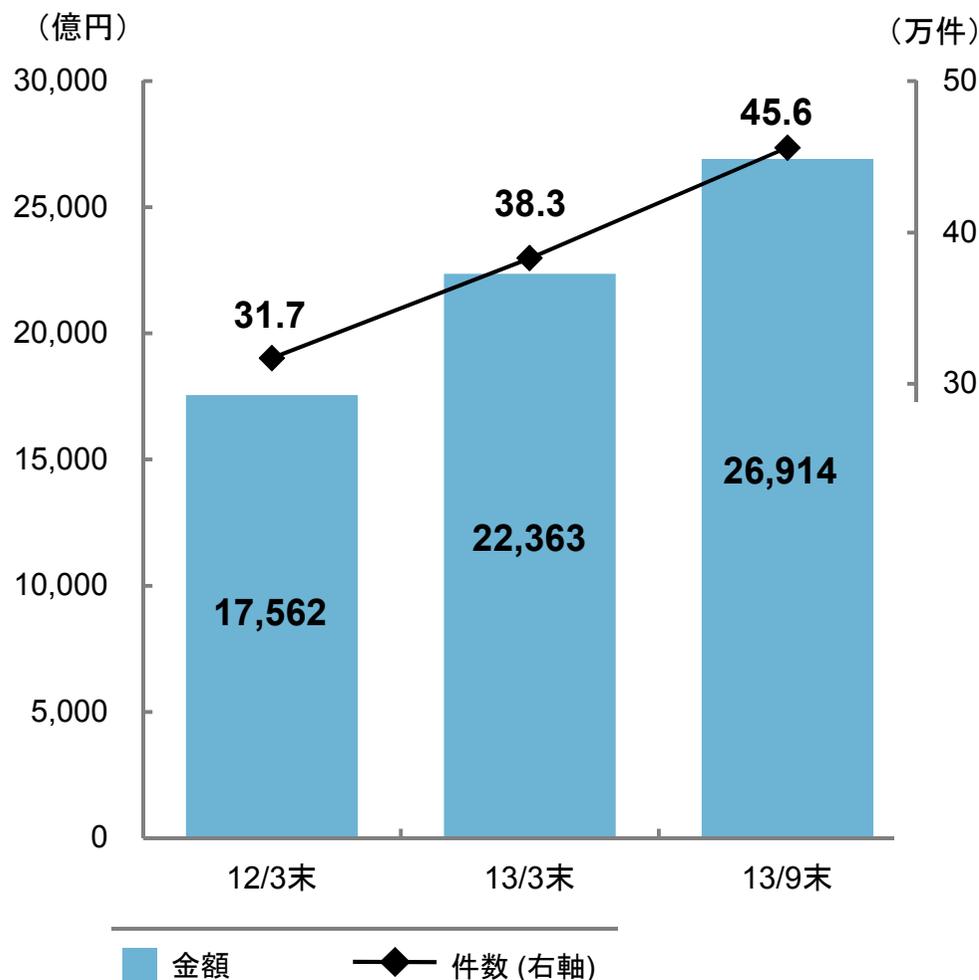
一時払い商品の販売額推移⁽¹⁾



根拠資料: 保険毎日新聞、ニッポン、日本経済新聞より当社作成
 (1) 保険料ベース

保有契約高

収支の状況



(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計
経常収益	2,198	6,578
うち保険料等収入	2,037	5,957
うち変額商品	243	1,819
うち円建定額商品	751	1,866
うち外貨建定額商品	820	1,689
うち資産運用収益	159	621
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	83	-
経常費用	2,278	6,759
うち責任準備金等繰入額	1,405	4,454
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(B)	199	143
うち危険準備金繰入額(C)	13	94
うち資産運用費用	218	330
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(D)	-	124
経常利益(△は損失)	△ 79	△ 181
純利益(△は損失)	△ 81	△ 183
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D)	48	178

【参考】

再保険収支

再保険収入	222	581
再保険料	303	622
再保険収支	△ 80	△ 40

定額年金の市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額

繰入額(△は繰入)	△ 30	13
-----------	------	----

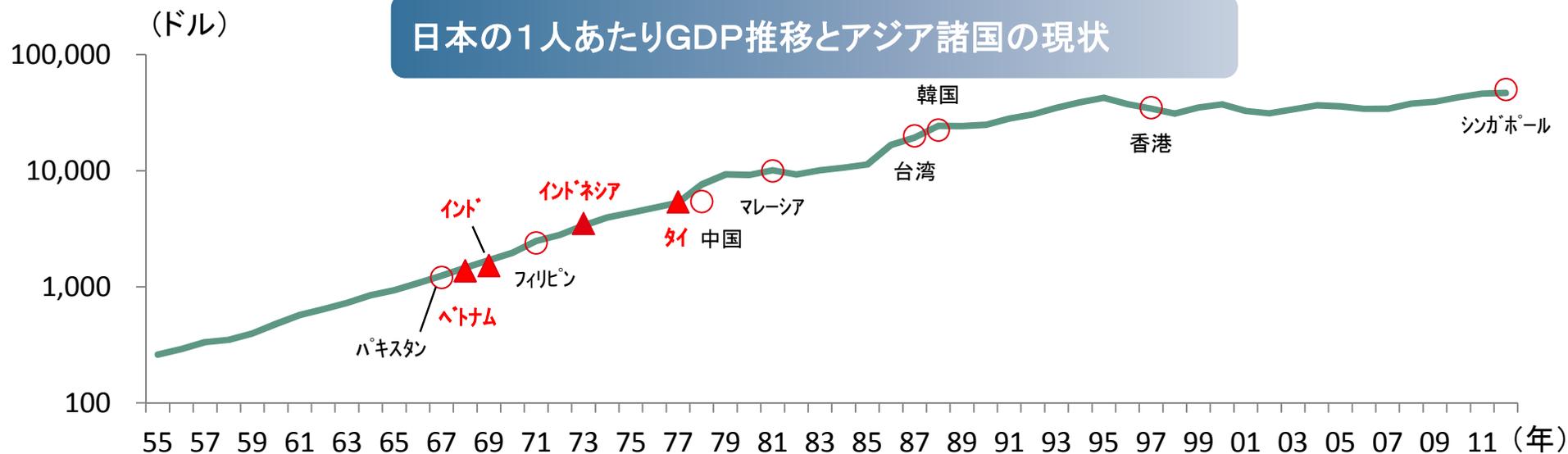
海外事業

一生涯のパートナー

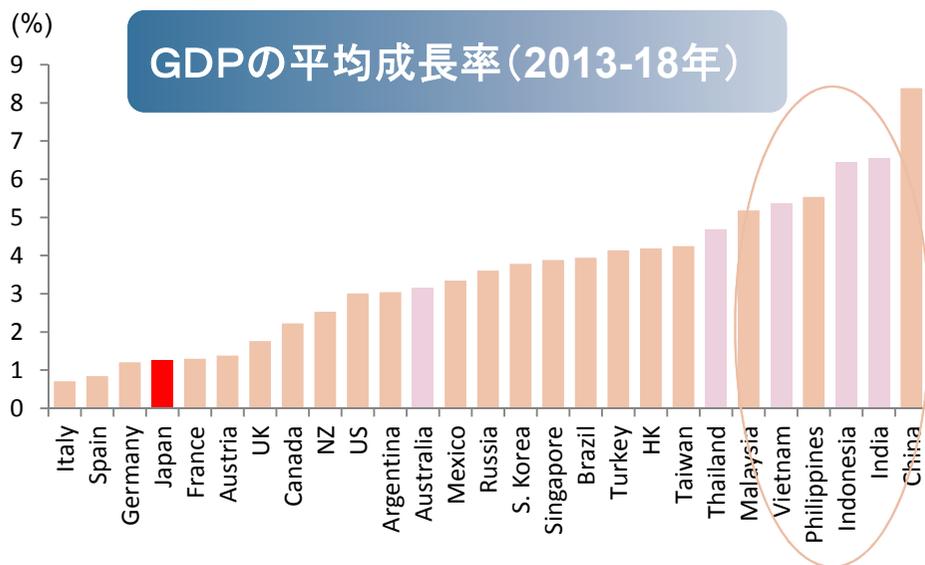
第一生命

海外市場／日本の成功を背景に潜在性の高い市場に進出

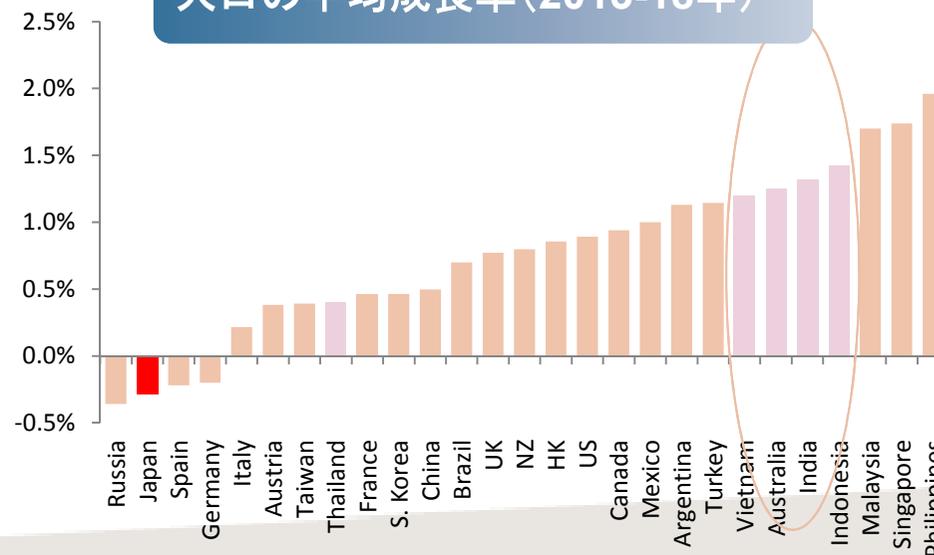
日本の1人あたりGDP推移とアジア諸国の現状



GDPの平均成長率(2013-18年)

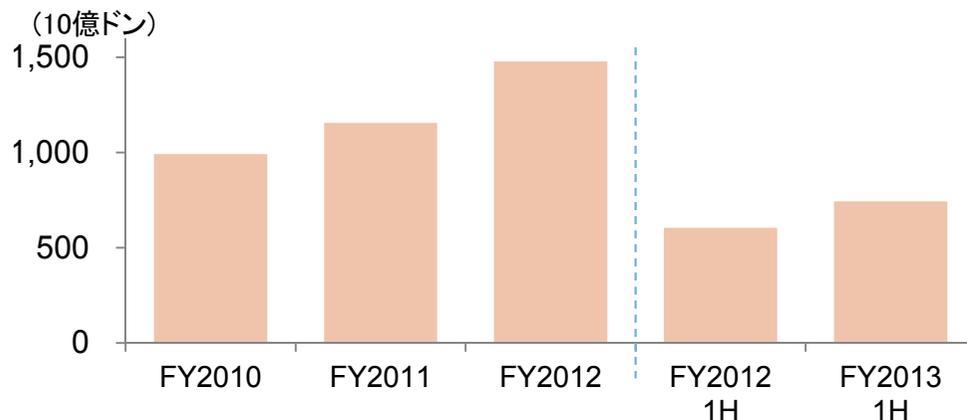


人口の平均成長率(2013-18年)

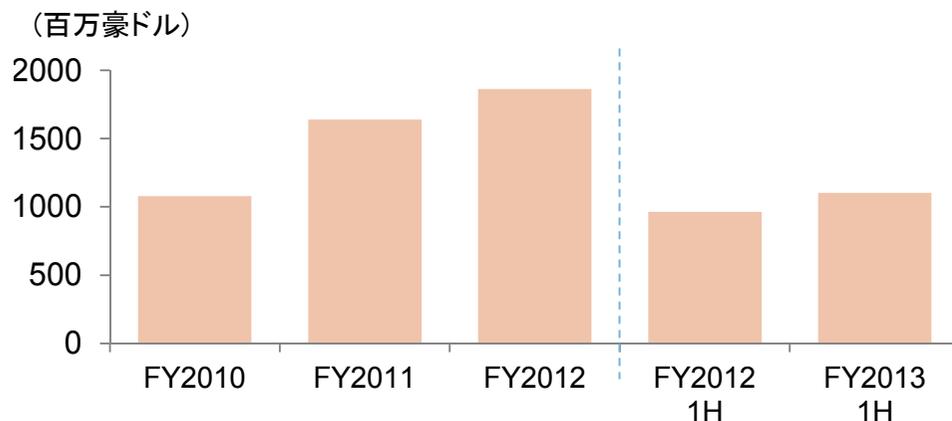


出所: IMF、Swiss Re

ベトナム 保険料等収入の推移⁽¹⁾



オーストラリア 保険料等収入の推移⁽²⁾



■ これまでの取り組み

⇒ 販売ネットワークの拡充及び個人能率の向上等により個人代理人による販売業績は堅調に推移しており、保険料等収入は順調に伸展

■ 今後の施策

⇒ 個人代理人チャネルの増強に加え、チャネルの多様化等の取り組みを通じ収入保険料の持続的成長を目指すと共に、収益性の高い商品の開発・販売等により収益力の強化を図る

■ これまでの取り組み

⇒ 個人保険分野においては独立アドバイザーとの関係強化や商品優位性の浸透、団体保険分野においては既契約の保険料率見直し等により、保険料等収入は高水準の伸びを維持

■ 今後の施策

⇒ リーテイルにおける自社チャネルの強化、ダイレクトにおける提携強化により、引き続き市場平均を上回る成長を目指す

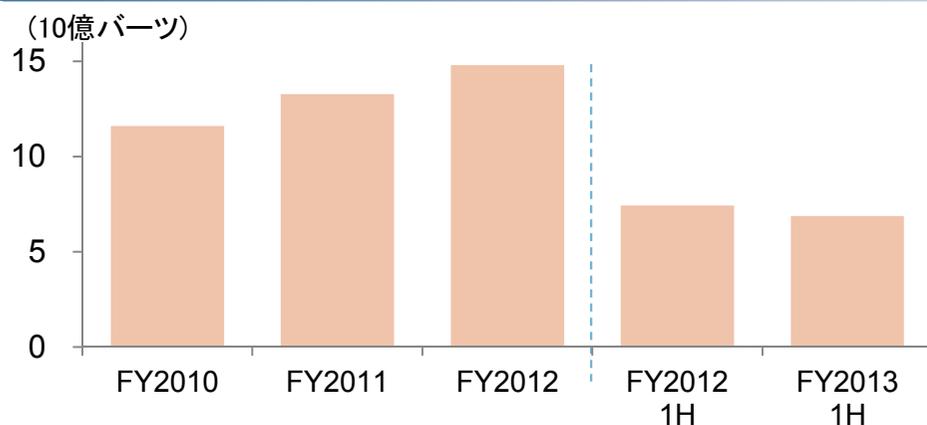
(1) 会計年度は1月～12月。

(2) 会計年度は4月～3月。持分考慮前。2011年以降は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示。

インド 換算保険料等収入の推移⁽¹⁾⁽²⁾



タイ 保険料等収入の推移⁽¹⁾



(1) 会計年度は1月～12月。持分考慮前。

(2) 換算保険料:個人保険の一時払商品保険料を1/10のみ計上。かつ収益性の低い団体年金保険料は計上せず。

■ これまでの取り組み

⇒当局による手数料規制やマクロ環境の悪化を背景に市場成長が鈍化する中、中長期的かつ安定的な収入保険料の確保および収益性向上のため、主力商品を従来のユニットリンク型の一時払商品から伝統的平準払商品へシフトを開始

■ 今後の施策

⇒ホールセラーの採用をはじめとするバンカシュアランスチャネルの更なる増強に加え、解約防止・継続率向上を目的とする各種取り組みを推進することで、安定的に収入保険料を確保し収益力の向上を目指す

■ これまでの取り組み

⇒収益性向上を狙い、一時払保険から平準払保険へ商品ポートフォリオを見直し

■ 今後の施策

⇒商品ポートフォリオ見直しによる収益性向上取り組みを継続しながら、個人代理人チャネルにおける現場教育体制の構築や採用活動を強化すること等により、保険料等収入の向上を目指す

主要業績

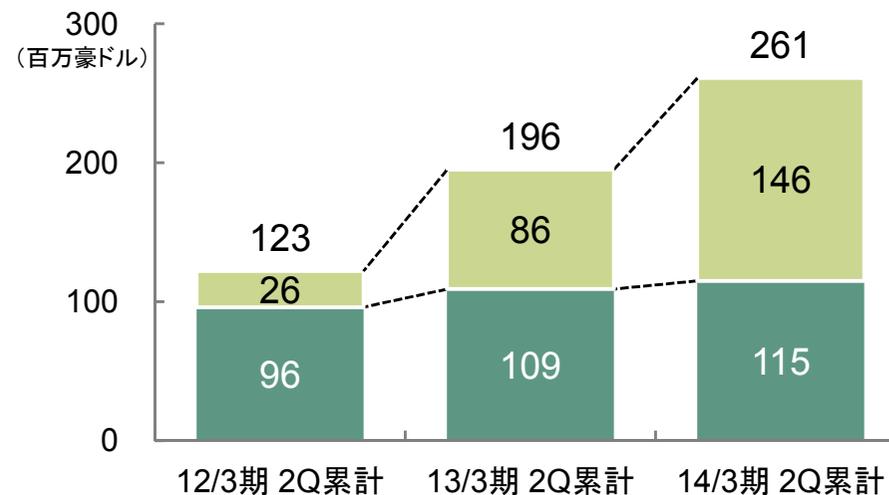
	(百万豪ドル)		
	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益 ⁽²⁾	1,195	1,372	+15%
うち保険料等収入 ⁽²⁾	962	1,102	+15%
経常利益 ⁽²⁾	97	49	△49%
純利益(A) ⁽²⁾	68	29	△57%
修正額(B)	2	16	
うち負債割引率の変化	△21	3	
うち償却負担	11	10	
その他	12	3	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	70	46	△34%

<参考>

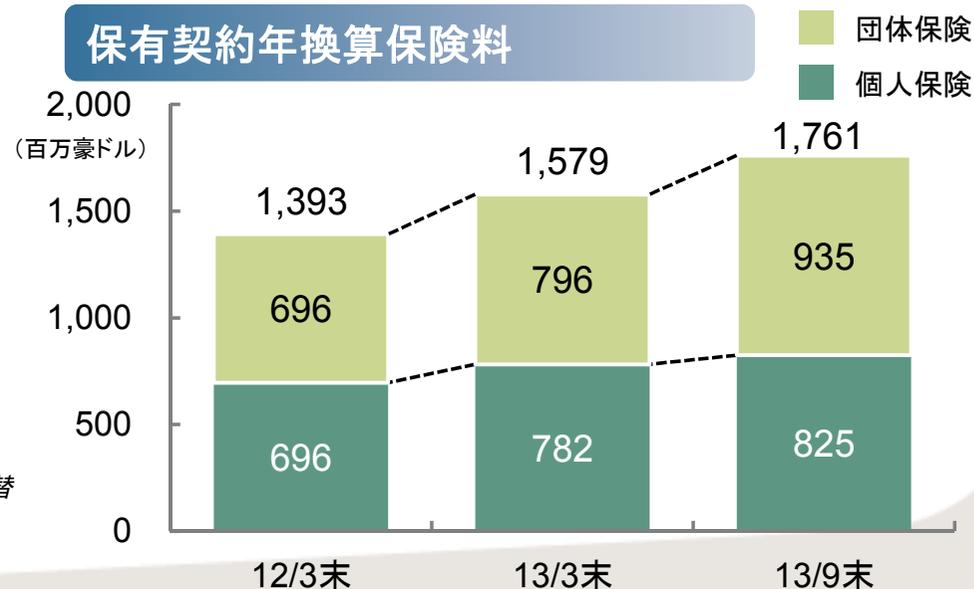
	12/9末	13/9末
為替レート(豪ドル)	81.12円	90.87円

- (1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



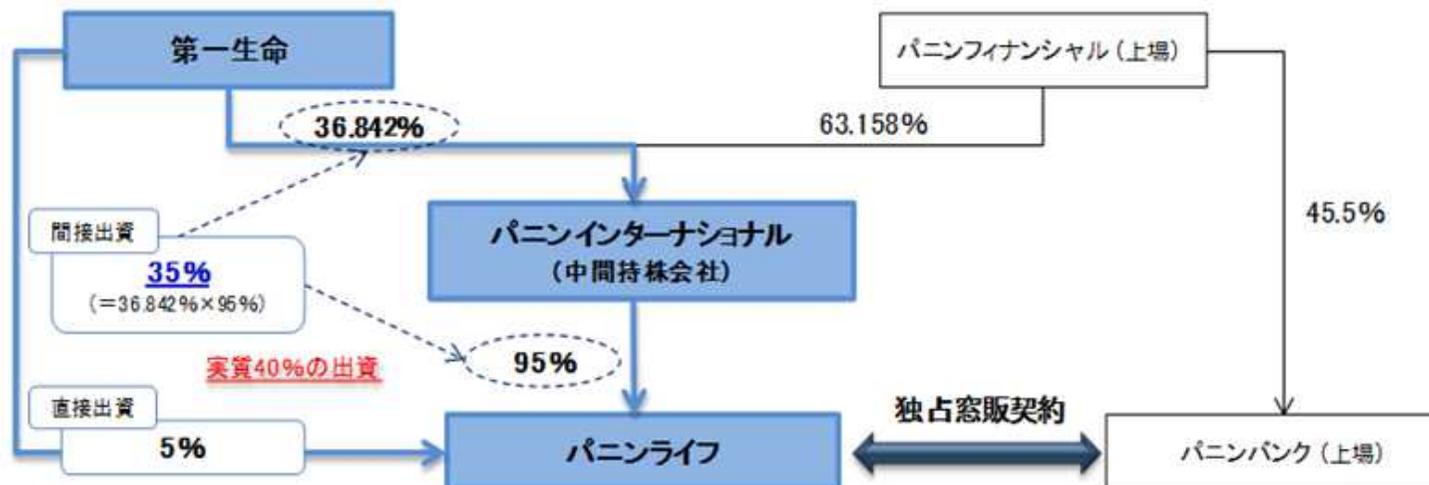
保有契約年換算保険料



【会社概要】

会社名： PT Panin Life
 設立年： 1974年
 本社所在地： インドネシア ジャカルタ
 上場： 非上場
 当社出資比率： (直接・間接合わせて)40%
 収入保険料： 22,158億ルピア(約230億円)(2012年度)
 税引後利益： 1,203億ルピア(約12億円)(2012年度)
 生保順位： 12位/45社中(2011年度収入保険料ベース)

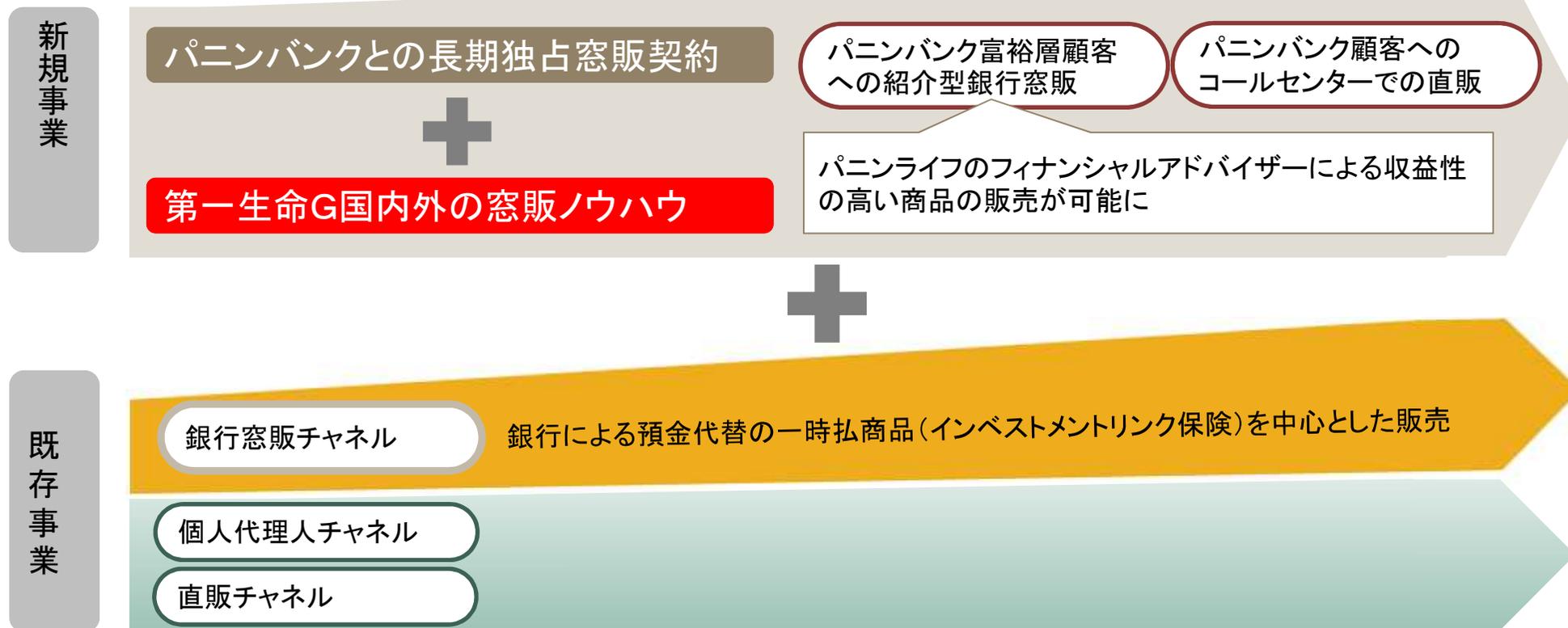
【出資スキーム】



海外市場／パニンバンクとの独占窓販契約を通じて市場を上回る成長を目指す

- パニンライフは、新たにパニンバンクと長期の独占窓販契約を締結。パニンバンクの顧客基盤と第一生命グループの国内外窓販ノウハウを活用することで収益性の高い商品の販売を進める
- 第一生命の商品開発やチャネル育成等のノウハウを注入することで、既存事業（個人代理人チャネル、銀行窓販チャネル、コールセンターを通じた直販チャネル等）の更なる拡大を図る

【事業展開イメージ】



- グループおよびジャナス社双方の企業価値向上を目指す
 - ✓ 新たな成長ドライバー獲得による第一生命グループの収益力向上、グローバル展開加速
 - ✓ ジャナス社の中長期戦略を後押しする提携メニューの実現による企業価値向上



※DIAMはみずほフィナンシャルグループと第一生命が折半出資する資産運用会社

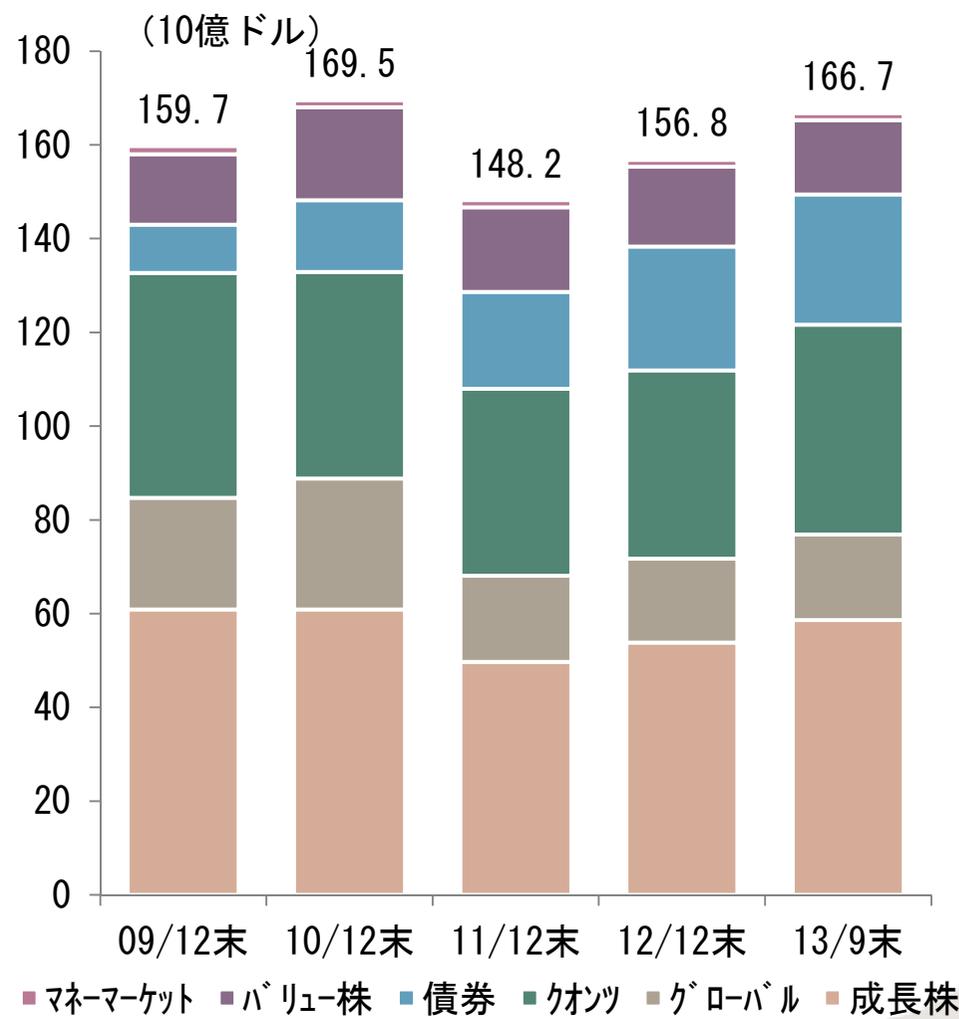
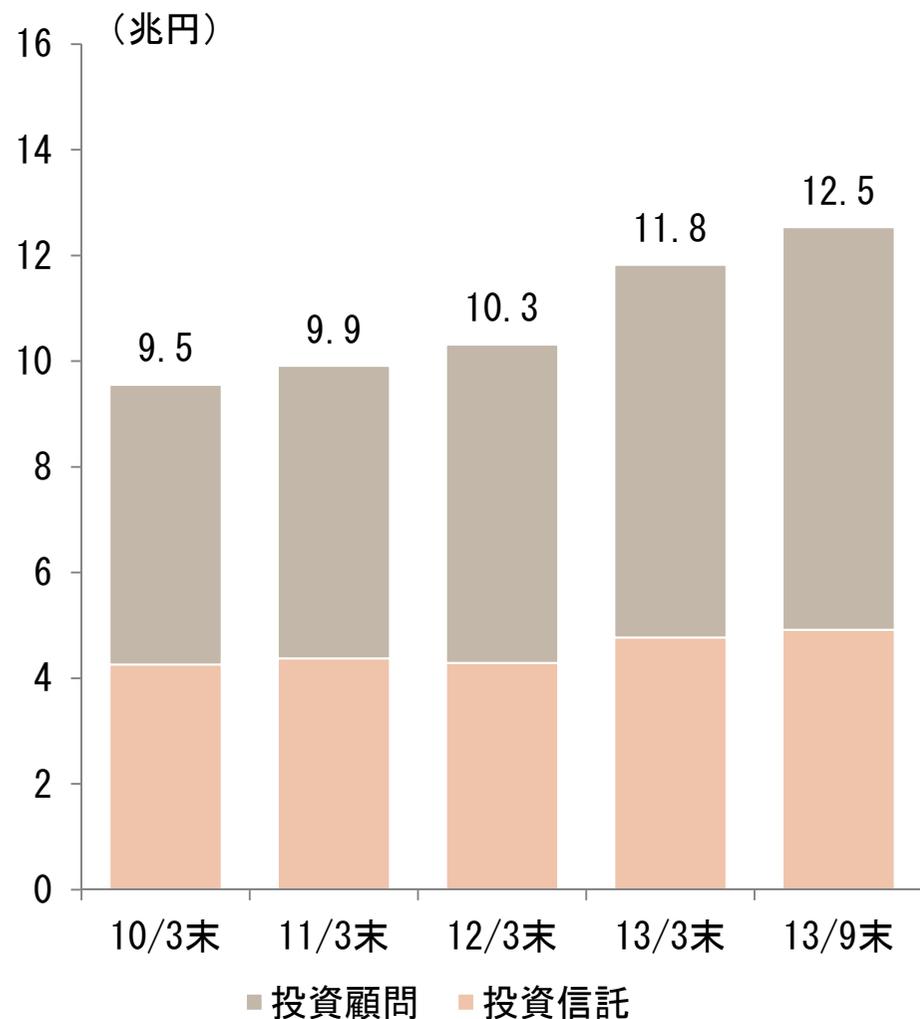
アセットマネジメント事業／運用受託残高の推移

一生涯のパートナー

第一生命

DIAMの運用受託資産残高の推移

ジャナス・キャピタルの運用受託資産残高の推移



(注)運用受託資産は、投資顧問における運用受託資産と投資信託に係る運用受託資産の単純和。

EEV感応度分析

一生涯のパートナー

第一生命

第一生命グループのEEV感応度(2013年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (13/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	2,013 5%	△ 10,200 △ 27%	12,213 32%	131 13%	2,693 8%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 2,990 △ 8%	9,094 24%	△ 12,085 △ 32%	△ 154 △ 15%	△ 3,691 △ 11%
株式・不動産価値10%下落	△ 3,180 △ 8%	△ 3,249 △ 9%	69 0%	△ 12 △ 0%	△ 2,966 △ 9%
事業費率(維持費)10%減少	1,744 5%	0 0%	1,743 5%	65 6%	1,755 5%
解約失効率10%減少	1,902 5%	0 0%	1,902 5%	135 13%	1,813 5%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	1,489 4%	8 0%	1,480 4%	36 3%	1,473 4%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	△ 106 △ 0%	△ 1 △ 0%	△ 105 △ 0%	0 0%	△ 111 △ 0%
必要資本を法定最低水準に変更	330 1%	- -	330 1%	7 1%	284 1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 301 △ 1%	- -	△ 301 △ 1%	△ 5 △ 1%	△ 271 △ 1%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	△ 115 △ 0%	- -	△ 115 △ 0%	0 0%	△ 163 △ 0%
第一生命グループのEEV	37,769			1,049	33,419

第一生命単体のEEV感応度(2013年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (13/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	2,102 6%	△ 9,806 △ 26%	11,908 31%	129 14%	2,726 8%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 3,076 △ 8%	8,807 23%	△ 11,883 △ 31%	△ 157 △ 18%	△ 3,686 △ 11%
株式・不動産価値10%下落	△ 3,151 △ 8%	△ 3,179 △ 8%	28 0%	1 0%	△ 2,925 △ 9%
事業費率(維持費)10%減少	1,673 4%	- -	1,673 4%	56 6%	1,687 5%
解約失効率10%減少	1,745 5%	- -	1,745 5%	116 13%	1,651 5%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	1,392 4%	- -	1,392 4%	26 3%	1,388 4%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	△ 104 △ 0%	- -	△ 104 △ 0%	0 0%	△ 108 △ 0%
必要資本を法定最低水準に変更	318 1%	- -	318 1%	5 1%	276 1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 113 △ 0%	- -	△ 113 △ 0%	△ 1 △ 0%	△ 90 △ 0%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	△ 128 △ 0%	- -	△ 128 △ 0%	0 0%	△ 173 △ 1%
第一生命単体のEEV	37,868			896	33,529

第一フロンティア生命のEEV感応度(2013年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (13/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	△ 45 △ 3%	△ 427 △ 32%	381 28%	7 9%	18 1%
リスク・フリー・レート50bp低下	37 3%	308 23%	△ 270 △ 20%	△ 3 △ 4%	△ 65 △ 5%
株式・不動産価値10%下落	△ 26 △ 2%	△ 74 △ 6%	48 4%	△ 16 △ 20%	△ 39 △ 3%
事業費率(維持費)10%減少	14 1%	- -	14 1%	4 5%	12 1%
解約失効率10%減少	△ 25 △ 2%	- -	△ 25 △ 2%	△ 2 △ 3%	△ 24 △ 2%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	2 0%	- -	2 0%	1 2%	0 0%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0 0%	- -	0 0%	0 0%	0 0%
必要資本を法定最低水準に変更	6 0%	- -	6 0%	3 4%	1 0%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 208 △ 16%	- -	△ 208 △ 16%	△ 3 △ 5%	△ 202 △ 16%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	14 1%	- -	14 1%	0 0%	11 1%
第一フロンティア生命のEEV	1,340			82	1,293

TALのEEV感応度(2013年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (13/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	△ 48	△ 9	△ 38	△ 5	△ 49
	△ 3%	△ 1%	△ 2%	△ 6%	△ 3%
リスク・フリー・レート50bp低下	52	10	42	5	54
	3%	1%	2%	7%	3%
株式・不動産価値10%下落	△ 4	△ 2	△ 2	0	△ 5
	△ 0%	△ 0%	△ 0%	0%	△ 0%
事業費率(維持費)10%減少	58	0	57	5	57
	3%	0%	3%	6%	3%
解約失効率10%減少	179	0	179	20	184
	10%	0%	10%	26%	11%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	94	8	85	8	83
	5%	1%	5%	11%	5%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	△ 2	△ 1	△ 1	0	△ 2
	△ 0%	△ 0%	△ 0%	0%	△ 0%
必要資本を法定最低水準に変更	5	-	5	0	6
	0%	-	0%	0%	0%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	0	-	0	0	0
	0%	-	0%	0%	0%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	0	-	0	0	0
	0%	-	0%	0%	0%
TALのEEV	1,721			78	1,726

財務諸表

一生涯のパートナー

第一生命

連結損益計算書(1)

(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
経常収益	23,377	29,752	+6,374
保険料等収入	17,077	21,188	+4,110
資産運用収益	5,042	6,826	+1,784
うち利息・配当金等収入	3,397	3,756	+359
うち有価証券売却益	1,259	1,444	+185
うち金融派生商品収益	28	-	△28
うち特別勘定資産運用益	-	1,381	+1,381
その他経常収益	1,256	1,737	+480
経常費用	22,488	28,191	+5,702
うち保険金等支払金	12,737	14,163	+1,426
うち責任準備金等繰入額	3,395	7,876	+4,481
うち資産運用費用	2,056	1,345	△710
うち有価証券売却損	315	392	+77
うち有価証券評価損	642	12	△630
うち金融派生商品費用	-	239	+239
うち特別勘定資産運用損	575	-	△575
うち事業費	2,283	2,551	+268
経常利益	888	1,560	+672
特別利益	45	17	△27
特別損失	207	272	+65
契約者配当準備金繰入額	389	402	+13
税金等調整前純利益	337	903	+566
法人税等合計	63	442	+379
少数株主損失(△)	△6	△18	△11
純利益	280	479	+198

連結貸借対照表

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
資産の部合計	356,944	365,219	+8,275
うち現預金・コール	8,487	8,503	+16
うち買入金銭債権	2,850	2,809	△41
うち有価証券	293,909	301,578	+7,669
うち貸付金	31,409	30,831	△578
うち有形固定資産	12,362	12,191	△171
うち繰延税金資産	676	650	△26
負債の部合計	340,453	347,991	+7,537
うち保険契約準備金	317,038	324,574	+7,535
うち責任準備金	310,125	317,645	+7,519
うち退職給付引当金	4,397	4,127	△269
うち価格変動準備金	892	1,035	+142
純資産の部合計	16,490	17,227	+737
うち株主資本合計	5,633	5,967	+334
うちその他の包括利益累計額合計	10,787	11,210	+422
うちその他有価証券評価差額金	10,993	11,514	+521
うち土地再評価差額金	△369	△370	△0

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益には影響するものではありません

第一生命(単体)財務諸表(要約)

損益計算書⁽¹⁾

	(億円)		
	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
経常収益	20,373	22,082	+1,709
保険料等収入	14,299	14,274	△25
資産運用収益	4,850	6,150	+1,299
うち利息・配当金等収入	3,360	3,698	+338
うち有価証券売却益	1,255	1,378	+122
うち特別勘定資産運用益	-	911	+911
その他経常収益	1,223	1,658	+434
経常費用	19,486	20,364	+877
うち保険金等支払金	11,710	11,821	+110
うち責任準備金等繰入額	1,960	3,252	+1,292
うち資産運用費用	1,882	1,058	△823
うち有価証券売却損	314	391	+76
うち有価証券評価損	651	12	△639
うち金融派生商品費用	5	187	+182
うち特別勘定資産運用損	458	-	△458
うち事業費	1,987	2,065	+78
経常利益	886	1,718	+831
特別利益	45	17	△27
特別損失	205	269	+64
契約者配当準備金繰入額	389	402	+13
税引前純利益	337	1,063	+726
法人税等合計	36	423	+386
純利益	300	640	+339

貸借対照表

	(億円)		
	13/3末	13/9末	増減
資産の部合計	330,724	334,746	+4,021
うち現預金・コール	7,294	7,285	△8
うち買入金銭債権	2,831	2,779	△51
うち有価証券	271,619	275,073	+3,453
うち貸付金	31,396	30,817	△579
うち有形固定資産	12,360	12,188	△172
うち繰延税金資産	655	629	△25
負債の部合計	313,947	316,945	+2,997
うち保険契約準備金	291,683	294,737	+3,054
うち責任準備金	286,370	289,559	+3,188
うち危険準備金	4,950	5,130	+180
うち退職給付引当金	4,375	4,103	△271
うち価格変動準備金	884	1,024	+140
純資産の部合計	16,776	17,801	+1,024
うち株主資本合計	6,235	6,727	+492
うち評価・換算差額等合計	10,537	11,068	+530
うち其他有価証券評価差額金	10,925	11,469	+543
うち土地再評価差額金	△369	△370	△0

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

第一フロンティア生命財務諸表(要約)

一生涯のパートナー

第一生命

損益計算書

(億円)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
経常収益	2,198	6,578	+4,380
うち保険料等収入	2,037	5,957	+3,919
うち資産運用収益	159	621	+461
経常費用	2,278	6,759	+4,481
うち保険金等支払金	563	1,731	+1,168
うち責任準備金等繰入額	1,405	4,454	+3,049
うち資産運用費用	218	330	+112
うち事業費	85	221	+136
経常利益(△は損失)	△79	△181	△101
特別損益	△1	△2	△1
税引前純利益(△は損失)	△81	△183	△102
法人税等合計	0	0	△0
純利益(△は損失)	△81	△183	△102

貸借対照表

(億円)

	13/3末	13/9末	増減
資産の部合計	23,731	28,060	+4,328
うち現預金・コール	625	618	△7
うち有価証券	22,365	26,679	+4,314
負債の部合計	23,086	27,623	+4,536
うち保険契約準備金	22,699	27,154	+4,454
うち責任準備金	22,684	27,137	+4,453
うち危険準備金	924	1,018	+94
純資産の部合計	645	437	△208
うち株主資本合計	572	388	△183
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,277	△1,461	△183

豪TAL財務諸表(要約)

一生涯のパートナー

第一生命

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	13/3期 2Q累計	14/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,195	1,372	+176
保険料等収入	962	1,102	+140
資産運用収益	105	158	+52
その他経常収益	127	111	△16
経常費用	1,098	1,323	+224
保険金等支払金	639	748	+109
責任準備金等繰入額	157	251	+93
資産運用費用	17	16	△0
事業費	241	264	+22
その他経常費用	42	42	+0
経常利益	97	49	△48
法人税等	28	19	△9
純利益	68	29	△38
修正利益 (Underlying profit)	70	46	△24

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

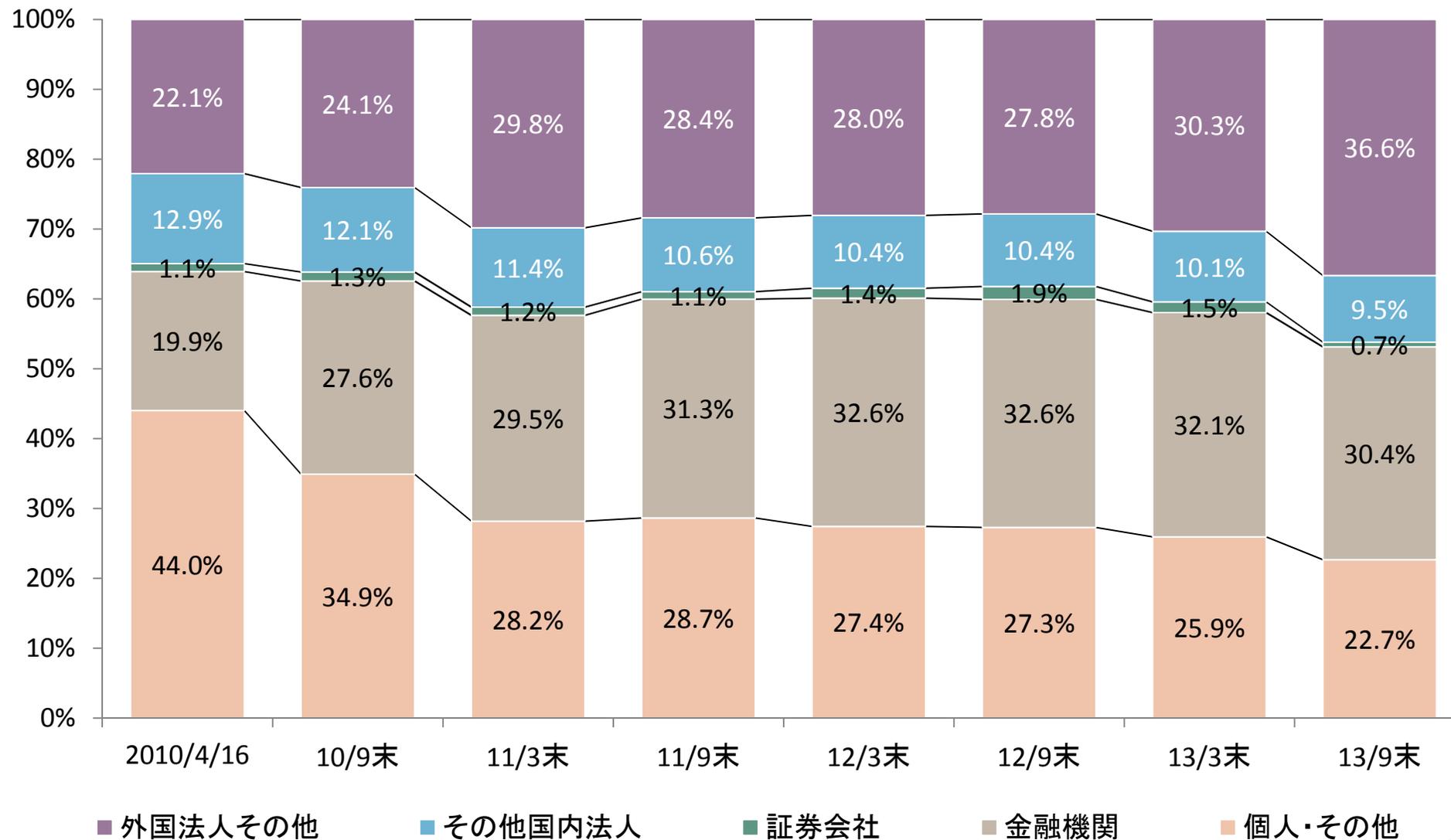
(百万豪ドル)

	13/3末	13/9末	増減
資産の部合計	5,499	5,808	+308
現預金・コール	467	556	+88
有価証券	2,808	2,864	+56
有形固定資産	-	0	+0
無形固定資産	1,263	1,249	△14
のれん	783	783	-
その他の無形固定資産	480	465	△14
再保険貸	48	54	+5
その他資産	910	1,083	+172
負債の部合計	3,688	3,967	+279
保険契約準備金	2,611	2,827	+215
再保険借	295	355	+60
その他負債	680	680	△0
繰延税金負債	101	104	+3
純資産の部合計	1,810	1,840	+29
株主資本合計	1,810	1,840	+29
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	180	209	+29

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

株主構成の変化



本資料の問い合わせ先
第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。